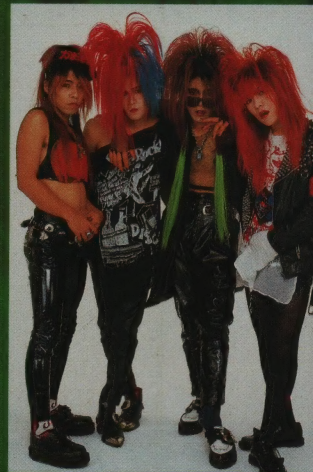
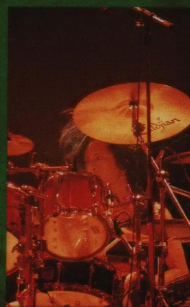
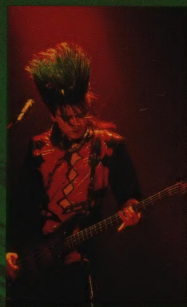
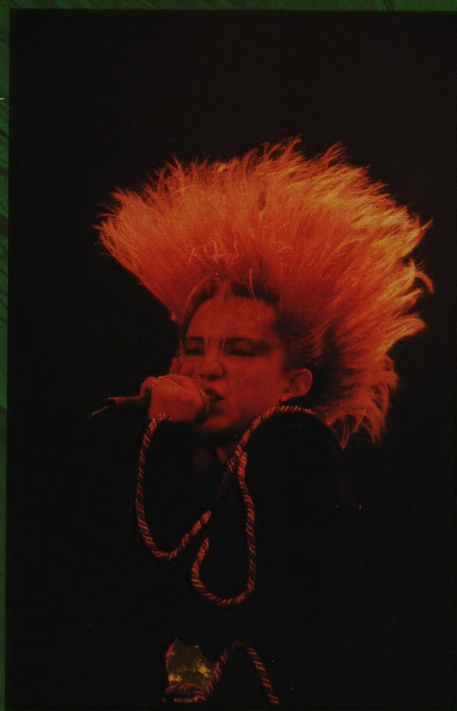
[月刊オンステージ11月号増刊]
ULTIMATE ROCK MAGAZINE!!
EX-CITE
1990年11月15日発行第3巻第17号
昭和63年12月3日第3種郵便物認可第2001号
ON STAGE
SPECIAL ISSUE
エキサイト
1990 VOLUME 5
PRICE 980 YEN
UNICORN・COBRA・BY-SEXUAL・かまいたち・AURA

オンステージ11月号増刊

EX-CITE

エキサイト［Vol.5］

▶PUBLISHER／末井 昭
▶EDITOR-IN-CHIEF／高 護
▶EDITORS／高 由貴子　前田 理　今井俊彦　高橋 治　鹿子裕文　晴山知恵子
▶TOTAL ART DIRECTION／山口 明　木村秀子(keystone)
▶COVER撮影／北原 守
▶ポスター撮影／北原 守　生井秀樹　あまつゆか
編集部／〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷2-32-2 リベルテ青山3F　ONSTAGE編集部　☎03(479)6881
発行・発売／株式会社　少年出版社　〒169　東京都新宿区高田馬場4-28-12　☎03(360)1482

CONTENTS

写真／生井秀樹（ライヴ）
写真／あまつゆか（ライヴ）
写真／北原 守（スタジオ）

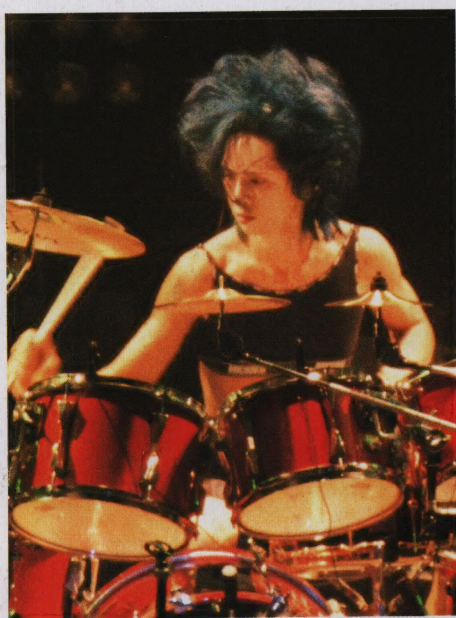
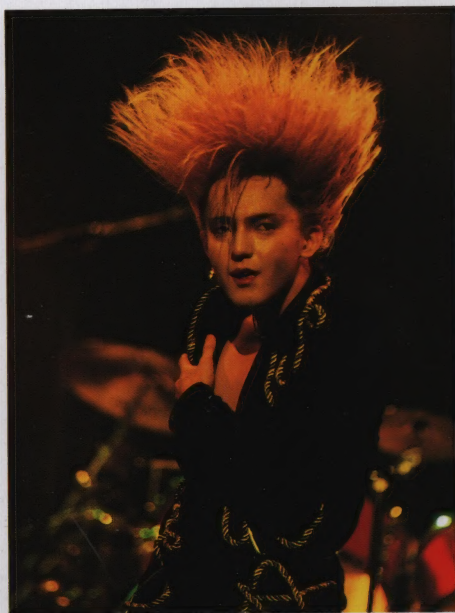
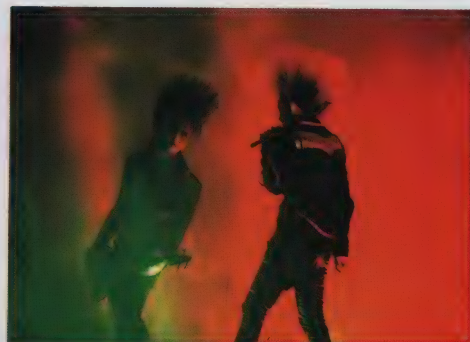
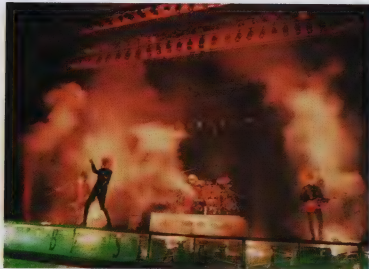
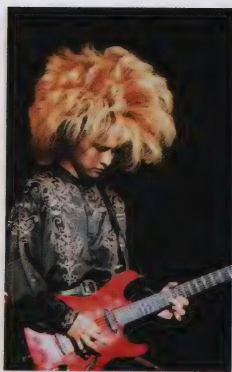
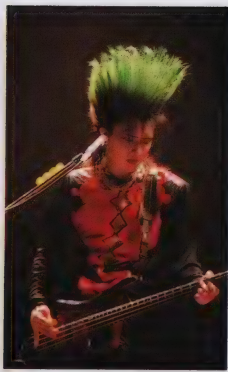
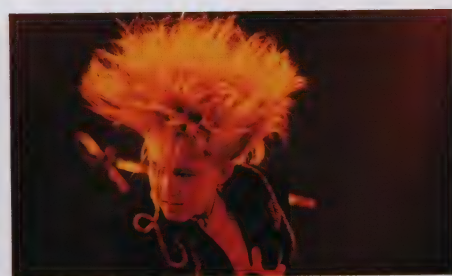
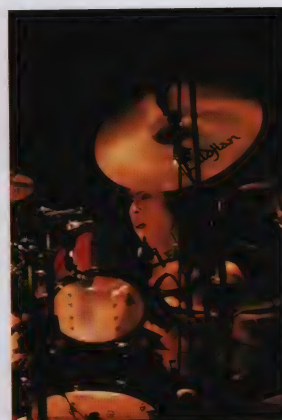
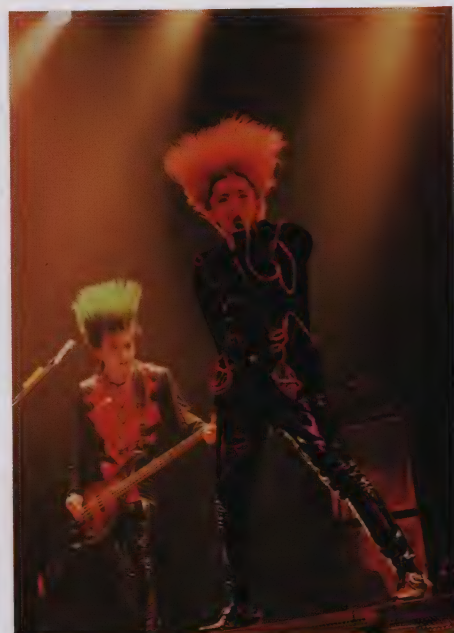
BY SEXUAL

LIVE at SHIBUYA KŌKAIDŌ 1990.9.29

SHO

RYÖ

DEN

NAO

かまいたち
Vive le Rock!

Photo／Mamoru Kitahara
Interview／Akemi Ohshima

PERSONAL INTERVIEW

SCEANA

◆かまいたちに入ったきっかけは？

僕が前にやってたバンドが解散した時、ちょうどかまいたちがギターとヴォーカルを募集してたんで、やらしてもらうことになったんです。その頃、ケンちゃんとモグアイくんとは、結構仲良くしてたんで。

◆前はどんなバンドをやってたの？

スラッシュ系統のバンドです。

◆その頃はどんなヘアスタイルだったの？

短くて、金髪。でも、かまいたちに入ってすぐに赤くしました。その頃、ケンちゃんは半分金髪で半分黒。モグアイくんは茶色っぽかった。それで、全員金髪にすることになったんだけど、僕、まだ高校生だったんですよ。だから、金髪とかあかんかったから、ビラとかの写真を撮る時だけ金髪にして、そのあとまた黒く染め直して学校にいってました。スプレーじゃなくて、ちゃんと染めてたから、髪がボロボロやった。

◆赤くしたのは？

いつ頃だったかな。かまいたちに入って、ちょっとしてからかな。俺、もともと、赤がカッコいいと思ってて、赤くしたかったんです。だから、みんなが金髪で、俺だけ赤っぽい髪だった。

◆でも、その頃って金髪はいただろうけど、赤い髪は珍しかったんじゃない？

あんまりいませんでしたね。COLORくらいだったと思います。

◆入る前、かまいたちって知っていたの？

はい。京都やったら、有名なバンドやったから。うまいとかそんなんじゃなくて、変なバンドって感じで。でも、京都では一番か二番くらいに、客を集められるバンドでした。

◆そういうバンドに入れて、嬉しかった？

うん。ちょっと狙ってやろうかなって、思いました。ていうか、今まで同じ年のやつとばかりやってたから、年上の人とバンドやって勉強させてもらいたかったです。

◆それで、勉強になりました？

いえ。大きな間違いでした(笑)。勉強にはなりませんでしたね。

◆SCEANAっていうステージネームは、いつからなの？

かまいたちに入る前のバンドの時から。結構古いんです。

◆その頃は、SCEANAだけだったの？(以前、彼はSCEANA-417-しいなと名乗っていた時期があった)

そうです。でも、そのうち、みんなの名前が長くなったから、短いと損かなと思って長くしてみたんですけど、それも大きな間違いだったです。だから、今はまたSCEANAだけになってます。

◆どうして、大きな間違いだったの？

なんかね、カッコ悪いんですよ。子供みたいでしょ、あれ。だから、やめたんです。

◆SCEANAの由来は？

それは……内緒なんです。たいした理由じゃないもんで。

◆ケンちゃんやモグアイくんと知り合ったきっかけは？

知り合ったのは、かまいたちに入るちょっと前なんやけど。その頃、ちょうどかまいたちが活動停止してててね。ケンちゃんがなんかのイベントで、僕が前にやってたバンドのメンバーとセッションしたんですよ。そんなんで、だんだんと仲良くなったんです。その時にモグアイくんも見にきてて、「来月、俺らのバンドの解散ライヴがあるから来てください」っていったら、見にきてくれて。それで、「いっぺんあわしてみようか」っていうことになったんです。

◆その当時のかまちって、どんな音だったの？

僕の入る前は、ハードコアみたいな感じやった。僕が入ってから、ちょっとスラッシュっぽくなったような気がしますね。いろんなタイプの曲がありましたけど。とりあえず、速い曲が中心でしたね。

◆やっぱり、速い曲が好き？

うん。好きです。

◆でも、KISSが好きだったっていってなかったっけ？

好きやったですよ。でも、聞く分にはいいんだけど、やるとだるくなるんです。あのテの曲は。

◆速いとブレスとかが大変なんじゃない？

いや、昔はそうやってたんけど、最近は慣れたみたい。逆に遅い曲のほうが、息継ぎとかが大変なんですよ。

◆じゃ、かまちで遅い曲やるっていうことはないの？

どうやろ。ノリがある曲やったら、遅くてもいいと思うんやけど。でも、バラードとかは絶対やらへんと思います。やったら、終わりやと思うしね、かまいたち(笑)。昔、そういう話、あったんですよ。次にこういう曲をやろう、っていわれて、「俺、そんなん、いややし、そんな曲やるなら、やめる」っていったんです。そしたら、その話、なくなりました(笑)。だいたい、バラードとかって、歌えへんしね、ああいう感情をこめるような歌って。

◆やるならやめるとまでいったんだ？

いいました、いいました。今でも、そう思ってます。速くてそれっぽい歌を歌うんなら、まだいいんだけど……。俺、かまいたちのこと、メタルバンドだと思ってないしね。どっちかっていうと、メタル寄りのバンドがバラードとかってやりたがるでしょ。だから、やる必要もないと思うしね。

◆じゃ、かまいたちはバラードやらないと、宣言してしまう？

多分……いや、絶対、やらへんでしょう。

◆他の3人のメンバーについて、コメントしてもらえる？

みんながいたら、いいにくいですよね……。

◆今、いないからいいじゃない(笑)。

いなかったら、余計いいにくいですよ(笑)。あとから文句いわれたら、どないしよ……。他のメンバーにも同じこと、聞かはるんでしょ。

◆はい。

うー……そうだな。カジーはね。僕よりひとつ年下の、最年少のメンバーで……。何も考えてへんようで、一応考えているんですよ。やる時はやるしね。ただ、酒を飲むと恐いですね(笑)。

◆恐いって、暴れ関係？

うん。暴れ関係、あるなぁ、カジー。あと、叫び関係とか。ホテルで寝てると、夜中に声が聞こえてきたりとか。エレベーター下りたときから、声が聞こえますもん(笑)。でも、知らない人が見たら酒癖が悪いんだろうけど、身内には危害を加えないですね。

◆じゃ、知らない人が危害を加えられているの？

そうなってるんでしょうねぇ(笑)。あと、若いのに、自分の考えはちゃんと持ってる人ですね。

◆モグアイくんは？

給料をすぐ使ってしまう人(笑)。おもちゃとか、欲しいもんがあったら、あとのことを考えんとパッと使ってしまうみたいですね。前、給料全部、おもちゃに使ってしまったことがありましたよ。

◆性格的には？

おとなしい人なんやけど、怒ったら一番恐いんちゃうかな。

◆ケンちゃんは？

いちばん難しい人やね。リーダーだし、かまいたち作って今までやってきた人やから……。いろいろもめたりもしたけれど、いちばんバンドのことを考えてる人だと思う。俺、ケンちゃんとはよくぶつかるんですよ。別に悪気があるわけやないんだけどね。

◆性格的には？

全ての面で、軽いんちゃうかな(笑)。あ〜、でも、あとで自分のこともいわれるのかと思うと、恐いですね。ここにもう1個、ラジカセおいといて、持って帰って聞きたい気分です(笑)。

◆自分のことはどう思う？

ワガママです、かなり。それから、たいしたことじゃなくても、すぐ考え込んでしまうんですよ。僕、相手の人によかれと思ってやったことなのに、相手を傷つけてしまうことが時々あるんです。全然悪気はないんやけど。そういうことがあると、なんか考え込んでしまうことが多いですね。ただ、時間は完璧です。取材とか撮影には、遅れたこと一回しかないです。僕、いちばんに髪をたてるんで、僕が遅刻したら、みんなが遅くなっちゃうんですよ。だから、そういうことのないように、時間は守りますね。あ、でも、リハーサルはよく遅れます(笑)。30分、一時間は当たり前……っていう世界。ただ、他のみんなが僕に輪をかけて遅れてくるから、それでも僕は時間を守っているような錯覚を起こしてしまうんです。でも、一言でいうたら、やっぱりただのワガママなやつかな？

◆好きな女の子のタイプは？

僕ねー。髪の毛が長くて、工藤静香のような人が好きなんですよ。絶対、そんな人、いてへんのですけどね。

◆どういう性格のコがいい？

やっぱり明るいこのほうが話しやすいから、いいですね。逆からいうと、図々しくて常識のないやつ以外だったら、なんでもええ……っていうと誤解されそうだから(笑)。そうじゃない人が好きです。

◆面食い？

そんなことないです。この前、ケンちゃんだったと思うんやけど、雑誌かなんかで俺のことを面食いだっていってねー。「面食いって、本当ですか？」っていう手紙がくるんですよ。苦情っていうか、問い合わせっていうか。だから、ちゃんと書いといてください。「僕は面食いちゃいます」って。

やったるぜェ～"KAZZY"さすけ

PERSONAL INTERVIEW

やったるぜェ〜 "KAZZY" さすけ

◆かまいたちに加入したきっかけは？

僕、前のバンドでベースやってたんですよ。その頃にケンちゃんと「ケンプロ」っていうセッションバンドをやって、その時から気が合ってたんです。パンクのバンドで、ライヴもやったんですよ。その頃、かまちはギターがいなくて、「ギターやったら、一緒にやりたいな」っていってたんです。そのあともかまちのギターが全然決まらへんし、それで「どうでもいいや」と思ったのかどうかはわからへんけど、ケンちゃんに「カジー、やれや」っていわれたんです。それで、気もあってたし、軽い気持ちで入ったんですよね。

◆ベースから転向したのって、大変じゃなかった？

大変でしたよ。入って最初の2、3ヵ月のライヴは、今でも下手なんやけど、ほんま、超絶に下手でねー。演奏にならへんかったりとか。チューニングもあってなかったりとか。あとでモグアイに聞いたら、その頃彼は「かまち、終わったな」と思ってたんやって（笑）。

それくらい、ボロボロで迷惑かけたんです。それに、結構、京都で「かまちもあんないい加減なギターのやつおるし、あかんわ、もう」っていわれてて、見返してやろうって。絶対に売れて、逆に意地になりました。

◆練習とか、すごいした？

うん。練習っていうか、ギターはいつも触ってました。

◆でも、ベースをやってたんだから、ギターも少しは弾けたんでしょ？

そう思ってたんですよ。同じ弦楽器やから、軽いもんかなと。そしたら、えらい、全然ちゃいました。ギターって、シビアっていうか、難しい楽器なんですよ（笑）、僕が思うところ。今でも下手やから、もっともっと練習せんとね。

◆ベースを全うしようとは思ってなかったの？

思ってましたよ。かまちに入って半年くらいは、まだ気分はベーシストみたいなとこがあって、「いつかはまた、ベースをやりたいな」って思ってました。

◆今は？

今は、もう全然。ギターが好きやから。でも、最初のその半年間はギターが好きになれへんかって、ベースのほうを愛してたんですよ。でも、ふとしたきっかけですっごいギターが好きになって、フッきれたっていうか。

◆そのきっかけって、なんだったの？

なんだったんだろ。ツアーをやってからかな。それから、ギターも愛するようになったんです。

◆前のバンドでは、どんな音楽をやってたの？

速くて明るい曲。デカメロン（最近、インディーズで注目されているバンド）っていうバンドにいたんです。

◆え、デカメロンの曲って速かったっけ？

当時は、速かったんです。今はちょっと変わったけど、今でも俺がいた頃の曲、やってますよ。

◆デカメロンをやめたのは？

去年の始めに東京ツアーに来た時、ちょうど昭和天皇がお亡くなりになってね。俺たち、わざわざ来たのにライヴができなくて。そんなんで、ちょっと活動停止みたくなってしまったんです。それで、俺もバンドを探してて、そしたら、ケンちゃんに声をかけられたんですよ。

◆デカメロンって、誰かのお兄さんがいるんだよね？

そう、SCEANAくんのお兄さん。だから、デカメロンのファーストライヴにSCEANAくんが来てて、飛び入りしたりとか、かまちとは結構つるんでました。ツアーにも、一緒にいったしね。

◆「やったるぜェ〜"KAZZY"さすけ」っていうステージネームがついた理由は？

あれはね、冗談。本名が、梶井佐助っていうんですよ（笑）。それで、ギターがまだ弾けへん頃に「絶対、やったる」っていってたのを、ケンちゃんがなんかの時に（名前の前に）つけたのが始まり。でも、長すぎるから、次のアルバムあたりから短くなるかもしれへんですよ。

◆カジーくんから見た他のメンバーの性格を教えてくれる？

ははは……。よくあるやつですね。クレクレモグアイくんはね、大人。すごい真面目なんですよ、彼は。みんな、いうてたでしょ？　すげー大人で、いちばん真面目に音楽の話をしますね。

◆SCEANAくんは？

SCEANAくんはね、どんなんかな。普段はいちばんおとなしい感じ。酒飲んだら、もっとおもろいんだろうけど、飲まへんしねー。そこが、まだ青いかなと（笑）。たまに飲むんですけどね、飲むと倒れるんですよ、いきなりバターンって。だけど、ギャグのセンスはムッチャおもろい。なんか、兄貴みたいな人。かかせない存在ですね。ヴォーカルとしても、あの人以外のヴォーカルは考えられへんっていう感じ。僕の作った曲とかも、ぴったり予想どおりに歌ってくれるし。ヴォーカリストとしても、大好きです。

◆ケンちゃんは？

ケンちゃんは、昔、バイトを一緒にやってたんです。新京極で、アクセサリーを売る仕事。それを一年以上、ふたりでやってたんですよ。それで、仕事終えてからも一緒に飲んでたから、その頃は仕事をしてるかケンちゃんと会ってるっていう生活やった。だから、何を考えてるか、だいたいわかりますね。もめたりもするけど、どんなにもめても次の日には忘れてる。いちばんもめるけど、あとには残りませんね。それから、いやらしい、すけべ（笑）。そういうとこも、好きやねんけど。ケンちゃんはなんか、兄弟みたいな人。僕にとって、特殊な存在の人ですね。昔は、憧れでもあってん。俺が16くらいの頃。その頃、ケンちゃんはもうかまいたちをやってて、「あー、ケンちゃんっていう人、カッコええなぁ」と思ってた。だから、最初、しゃべりたくても緊張して、しゃべれへんかったんですよ。そういう人と、一緒にバイトやって、一緒にバンドやって……。だから、僕にとっては特殊な存在ですね。

◆自分のことは、どんな人だと思う？

ダサイ、甘い。生意気やし。あんまり、いいとは思ってないです。でも、いちばん若いから、メンバーに甘えきって好き放題やらしてもらってる。僕ねー、ダサイナルシストっていうのが、目標なんですよ。客観的に見たらムッチャダサイねんけど、すごいナルシストなやつになりたいんです。でも、まだまだ自分が好きになれへん。かまちの自分が。だから、早くそうなって、好きになりたいです。

◆どうして、そういう目標ができたの？

ダサイっていったら変かもしれへんけど、ナルシストってカッコええでしょ。どうやっても、カッコいい二枚目にはなれへん人間やから、ダサクてもいいからナルシストで、折れ曲がれへんようなものを持っていたいなと思うんですよ。

◆いちばん暴れるという噂もあるけど？

いや、そんなことはないです（笑）。好き放題やってるだけで。なんか、メジャーになってもね、そういう立場になってもいい続けなければあかんことって、あると思うんですよ。仕事は仕事、普段は普段ってわりきって考えたら、絶対仕事のほうで妥協してまうと思うんですよ。なんか、あるでしょ、ここは仕事やから、押さえてみたいな。そうなったら、僕らみたいなヘタクソなバンド、あかんと思うんですよ。テクで売ってるわけじゃないし、自分らの考え方を変えたらあかんっていうか。だから、普段も仕事も、絶対に感情どおりに動かなあかんなと思ってるんです。好き放題やって。

◆その好き放題やるっていうのは、たとえばどういうことなの？

感情に流されていきたいんですよ。たとえば、こういう場（撮影スタジオ）でもむかついたら、わーっとやりたいし。そこで妥協して、こんなん（にっこりと作り笑い）して写ってたら、嘘でしょ。可愛いとこだけや、ないんだぞってことです。

◆ステージとかでも、そう思うことある？

ステージは、あんまり意識してへん。精一杯、できるかぎりやりたいと思ってるから。あ、でも、ステージでも感情的になること、あるかな。ミスったら、弾かんようになったりとか。自分に頭くるんですよ。だから、他に責任ぶつけたらあかんのやけど、ガーッとなったりしますね。ソロが終わっても、弾きたいときは弾きたいし。歌が入ってきてもね（笑）。

◆お客に腹たつことは？

ありますよ。でも、ホールになってからは、別世界やから。できるだけ、腹たたないようにやってます。自分が15、6の頃のことを思い出して、客がこういったのはこういう気持ちだったんだろうとかね。でも、自分のことをわかってほしいから、怒ってる時は俺が怒っているっていうことを客全員にわかってほしい。ほんまにムカついてそいつが憎いとかじゃないんやけど、怒ってることだけは理解してほしいねん。寂しがり屋だし。こんなバンドやってるような人間やから、理解者が欲しいんです。

◆好きな女の子のタイプは？

明るくて、イジイジしてない人。それに、自分のやりたいようにやってる子が好き。最近、僕らのファンでも「メンバーに、嫌われないようにしとこ」って、おとなしい子が多いんですよ。そんなん考えずに、自由に行動してほしい。それが好きな女の子のタイプでもあり、好きな男の子のタイプでもあり、好きなファンのタイプでもあるんです。

PERSONAL INTERVIEW

クレ^2 MOGWAI

◆ケンちゃんと知り合ったきっかけは?

お互いに違うバンドをやってた時に、町で知り合ったんです。ライヴハウスとかで一緒にやったことはなくて、なんか他の場所で会って仲良くなりました。

◆バンドを一緒にやろうと思ったのは?

お互いにきびしいバンドだったんですよ。ハードロックだったんで、難しくて……。それで、他のメンバーに迷惑かけて、怒られてばかりいたんだけど、そんなの楽しくないでしょ? だから、もっと気軽にやれる楽しいバンドを作ろうっていって、結成したのがかまちです。

◆ハードロックじゃなくて、もっと他の音楽をやりたかった?

それもありました。軽いパンクとか、もっとムチャクチャできる音楽。その頃、僕はグラムロックとか好きだったんで、そういうのもやれたらいいなと思ってたんだけど、結局それはできませんでした(笑)。

◆作った時には、「こういう音楽をやっていこう」みたいなのはなかったの?

そういうのは、なかったなぁ。なんでもありが、面白いと思ってたから。ポリシーみたいなのは、全然ありませんでした。

◆かまちはメンバーチェンジが多かったけど、モグアイ君が「やめちゃおう」と思ったことはなかったの?

僕、そんなに真剣にやってなかったから(笑)。まさか、今みたいにメジャーになれるなんて、思ってなかったですからね。だから、「やめよう」なんて思ったことないですよ。やめても、他にすることもないしね(笑)。適当です。

◆じゃ、「メジャーになりたい」とは思ってなかったの?

夢では思ってました。でも、実際になれるとは、全然思ってなかったです、僕らみたいな超ヘタクソなバンド。

◆クレクレモグアイという名前の由来は?

クレクレっていうのはね、昔、「クレクレタコラ」っていうなんでもものを欲しがるタコの怪獣の5分間のドラマがあったんですよ。それがムチャ好きだったんで、頭に付けて、モグワイは「グレムリン」っていう映画があったでしょ。あれにでてくる可愛い怪獣の名前からきてるんです。

◆いつから、そう名乗っているの?

クレクレがついたのは、わりと最近。モグワイっていうのは、SCEANAが入った頃かな。だから、87年くらい。

◆そういう名前をつけた理由は?

なんか、ステージネームみたいのを付けたかったんです。それで、「なんか、ええのないかな」と思って、考えたんやけど、つけた当時は誰もそう呼んでくれなかったです。

◆でも、根性で続けていたんだ?

そう。やっと最近、ちょこちょこと、呼ばれるようになってきました。モグワイって、中国語らしいんですよね。中国語の方言で、「モンスター」のことをいうみたいです。

◆モグワイ君から見た他の3人のメンバーの性格を教えてくれる?

ひとりずつですか? 難しいな。みんな、いうてました?

◆はい。

そうか……。SCEANAくんは、結構真面目で神経質な人。ええ詞を書きますよね。詞を書くときになると、火事場の馬鹿力で、実力を発揮するんで、「すげえな」って思ってます。

◆カジーくんは?

音楽面では、いちばんしっかりしてるんちゃうかな。僕なんか、音楽のことはよくわからへんし、全然理解できんのやけど、カジーくんはいちばんわかってると思う。曲に対しても、シビアだし。かまちに入るまではベースだったのに、すごいですよ。なかなかできませんよね。だから、努力家だと思います。表ではヤンチャで悪いことやってても、影では頑張ってる人です。

◆ケンちゃんは?

ハチャメチャです。そのひとこと。

◆バンドを一緒にやる前から、そうだったの?

そうですね。一緒に遊んでる頃から、ムチャクチャな人でした。

◆モグワイ君も一緒にハチャメチャやってたの?

とにかく、毎日のように朝まで一緒に遊んでました。僕、当時、土方のバイトをやってたんですけど、ケンちゃんのせいで仕事にいけへんかったこと、何回もあります。朝まで遊んでるから、朝、起きられへんのですよ。

◆帰ろうとしても、帰してくれないとか?

そうです。車でどっか遠くに連れていかれるんですよ。山奥とか。みんなが行ったことないようなとこを、探検しに行くんです。

◆そういう時、「明日、仕事だから、帰してくれ」っていわなかったの?

僕もそういうの、好きやからね。仕事より、ずっと楽しいし。

◆でも、それほどハチャメチャではないじゃない?

いや。僕はそうでもないんやけど、やっぱりケンちゃんはハチャメチャだと思います。

◆自分のことは、どういう性格だと思う?

なんも考えてへんのちゃうかな。ホントになんにも、真剣に考えてへんから。ま、やる時はやりますけどね。みんなもそんなに考えてへんと思うけど、僕がいちばんポーッとしてますね。仕事だと思ったら、バンドなんて終わりですよ。やってられへんからね。みんなワガママだし。

◆じゃ、メジャーになって変わったこととかない?

うん。ただ、こっち(東京)に住んでることと、よくタクシーに乗れること。それから、ええもん食べられることと、ちゃんとツアー先でホテルに泊まれること。変わったことといったら、それくらいちゃいます?

◆東京に来るのは、いやじゃなかった?

楽しみでしたよ。こっちのほうが、変わったものとか売ってるしね。でも、僕にとっては東京も京都も、あんまり変わらへん。家からあんまりでない人間やから。家の回りが静かやから、あんまり変わってないですね。

◆外に出て遊ぶより、家の中にいるほうが好きな人なの?

そうでもないですけど、普段は結構ビデオばかり見てるんですよ。ビデオおたくなんです。

◆どんなの見てるの?

なんでも見ますよ。映画やったら。でも、わりと明るいコメディが好き。あと、スプラッターっていうか、血しぶきが飛ぶようなやつも好きですね。

◆夜中にひとりで見てるの?

夜中には、あんまり見ないです。だって、こわいでしょ。見終わったあと、表に出られなくなってまうから。

◆お酒は?

打ち上げとかだったら飲むけど、ひとりでは飲みませんね。家でひとりで飲んでも、おいしくないですもん。

◆人形が好きだって聞いたけど。

そう。人形おたくで、ビデオおたくなんです。

◆どういう人形が好きなの?

子供の頃に集めてた怪獣の人形とか。ウルトラマンシリーズとか、ゴジラとか、そういうのを集めてるんです。最近はスターウォーズに凝ってるんですけど。だから、給料はいっても、すぐに使ってまうんですよ。高いですからね…。この前、7万円のを買ったんです。「怪獣ブースカ」に出てくるチャメゴンっていう相棒みたいなやつの人形。それが7万円もして、その月はどうやって暮らしたのかよく覚えてませんね(笑)。

◆なんでそんなに高いの?

古いんですよ。だから、なかなか見つからないし、あってもめちゃ高い。それやから、見つけると、あとさきのことを考えずに買ってしまって、苦労するんです。

◆初恋の頃のことって覚えてる?

はっきり覚えてへんのやけど、近所の年上のお姉ちゃんが好きやったような気がする。小学校2年くらいのことだったような気がします。でも、結構年上の人やったから、相手にしてもらえへんかった(笑)。

◆面食い?

どうやろ。自分では、わかりませんね。自分で面食いだと思っていても、他人から見たらとんでもないっていうこともあるし(笑)。

◆どんな女の子が好き?

平凡なんやけど、明るくて可愛い子かな。

◆好きなタレントは?

タレントやったら、僕、外人の俳優さんが好きなんですよ。新しい「バットマン」に出てたキム・ベイシンガーって人とか。

◆ナインハーフの人?

そうです。

◆可愛いっていうより、色っぽいタイプじゃない?

いや! そう思うでしょ? ナインハーフはダメなんです。「バットマン」とか、「花嫁はエイリアン」とかに出てるときは、全然違うんです。すごい可愛いんですよ。あと、リー・トンプソンとか、好きですね。

◆ビデオおたくだけあって、映画も詳しいみたいですね(笑)。

よく見てますよ。多いときは週に10本くらい、見ることあります。でも、みんなビデオなんですよね。映画はほとんど見にいかへん。もう一年くらい、見にいってないんとちゃうかな。最後は、ひとりで見にいった「うる星やつら」かな。「めぞん一刻」も見たかったんやけど、見にいけなくて残念だったんですー。

◆ひとりで見にいったの?

そうです。だから、僕、おたくなんですってば(笑)。

CRAZY DANGER NANCY けんchan

PERSONAL INTERVIEW

CRAZY DANGER NANCY けんchan

◆かまいたちを結成したきっかけは?

俺とベースのクレクレモグアイちゃんが別々のバンドをやってて、お互いひんしゅくを買っていたもんで、二人が組んだらもっとひんしゅくを買うようなバンドができるかなと思って、結成しました。それで結構暴れたりメチャしてたら、「ケンちゃんにはついていけない」っていってメンバーがやめてしまったりして、結局この4人が集まったのは89年の4月。最後にカジーが入ったのが、4月1日、エイプリルフールでした。それまでかまいたちはメンバーチェンジがムチャ多かったから、「いちばん大切なのは、うまさじゃなくて性格や。今度こそずっとやっていけるメンバーを入れよう」と思って、ベースをやってたカジーにギターを持たしてメンバーにしたんです。だから、あいつ、ムチャかわいそうで、入って1カ月もしていうちに初ライヴはあるわ、ビデオ(独罰視姦)やアルバム(いたちごっこ)もだすこと決まってたし、何が何だかわからなくて困ってたと思います。結構、あいつもその当時は気の弱い人間やったから。今なんか、いちばんムチャクチャやってますけど。人間、変われば変わるもんですね(笑)。

◆最初に別のバンドでひんしゅくを買っていたのは、なぜ?

下手やったから(笑)。それに、考え方が根本的に全然違ったんです。その頃って正統派の時代で、ギターだったら早弾きがうまくなくちゃとか、マーシャルの三段積みを持ってなくちゃあかんとか、スパッツはかなあかんとか。俺ら、スパッツよりもボロボロのジーパンはいてたほうがカッコええと思ってたし、髪も黒い長髪より色が入ってたほうがええと思ってたんですよ。メロディアスな早弾きのソロやるより、客席で暴れてるほうが楽しいと思ってたから。正統派の人たちには、ひんしゅくを買っていたわけです。

◆じゃ、前のバンドではハードロックをやってたの?

そうです。パンクもやってたけど。年上の人たちと組んだバンドだったんで、俺がいちばん年下でドラムのくせに目立ちたがったりして、それもあわなかったんです。今でも、目立ちたがって他のメンバーにひんしゅくを買ってますけどね(笑)。

◆かまいたちっていうバンド名の由来は?

俺、今でもそうなんやけど、妖怪とか怪獣とかが好きで、その頃持ってた妖怪図鑑っていう本の中から見付けたんです。なんか、鋭い感じがするでしょ。「姿形は現わさず、傷だけつけて去っていく」っていうのが、カッコいいなと思ったんです。でも、そのあと、「ゲゲゲの鬼太郎」にかまいたちが出てきたら、口の長いすけべそうな妖怪で「なんや」ってイメージダウンしたけどね(笑)。バンド名も最初の頃は、ひんしゅくでした。その当時は横文字のバンド名が流行ってたから、「かまいたちです」っていうと、どこでも「はぁ?」っていわれました。

◆はちゃめちゃ狂っていう言葉は、ケンちゃんがつけたの?

そやね。なりゆきだけどね。俺ら、曲にしてもハードロックっぽいのからパンクまでなんでもありやったし、格好もいろんなことしてたから、「はちゃめちゃ狂」やったらなんでも許されていいんじゃないかなと思ったんです。ファンの子に、よういわれてたしね。ライヴ終わって器材片付けながら、「今日のライヴ、どうやった?」ってきくと、「ほんま、はちゃめちゃやなぁ」って。それで「はちゃめちゃ」っていい言葉やなぁと思ってたんです。

◆髪を全員赤くしたのは、話し合って決めたの?

そう。「いたちごっこ」をだした時かな。これからこのメンバーで気合い入れてやっていこうっていうんで、なんか変わったことがしたかった。その頃、俺らの前で頑張っていたのが、エックスとCOLORで。エックスは全員金髪で、カラーは色がバラバラやったから、「じゃ、俺等は色でまとめよう」って、俺が単純なアイデアをだしたんです。アルバムの広告をカラーでだすことも決まってたから、普通の写真じゃインパクトないしね。それで、俺が言い出したら、みんなもノッてきたんですよ。

◆手入れが大変じゃない?

SCEANAは神経質だから大変みたいやけど、そのかいあって髪はきれいですよね。俺はこういう性格やからな……。ライブ終わって、髪たてたまま打ち上げ行って、そのまま寝てしまって、次の日、その上からまた髪をたてたり。逆に、そのほうが、よくたつんですよ(笑)。でも、洗うとかなり抜けます。ただ、取材や撮影の前に色を入れたりとか、そういうのは俺なりにちゃんとやります。初めて色をいれた頃、風呂に入ったら浴槽が赤くなって。初体験だったし、どっからか血が出たんかなって焦ったけど、なんのことはない、髪の毛の色が抜けただけやった(笑)。髪を染めるときも、僕は結構ひんしゃく買ったりしてたんですよ。ホテルの浴槽を赤くしてしまったり、ベッドのシーツが赤くなったり。他のメンバーはしっかりしてるんやけど。染めるとき、ビニールのゴミ袋を用意したり、ちゃんとタオルを床にひいたり。でも、俺、そんなん何も考えてへんから、「どうしてくれんねん」ってよく怒られました(笑)。

◆ケンちゃんから見た他のメンバー3人の性格を教えてくれる?

SCEANAはね、負けず嫌い。気が弱そうなんやけど、実は強い。俺も負けず嫌いやから、お互いに「あいつには負けんとこ」って気持ちがあって、いちばんもめたりしますね。でも、それがおもろいし、刺激があるから、これからもこのままでいきたいです。あと、几帳面。いいやつです。

◆カジーくんは?

あいつはしょぼいガキの頃から知ってんのやけど、今いちばんヤンチャっていうか、パワーある。俺も負けてるくらい。最近、二人で飲むと「ケンちゃん、丸くなったな」ってつき離したようにいわれますもん。いちばん研究熱心なんやけど、ちょっと情緒不安定なとこ、ありますね。さっきまで笑ってたのにいきなり怒ってたとか、そういうことが多いけど、それがカジーやからあかんとは思わない。一緒にいておもろいし。いちばん一緒に飲み会にいきますね(笑)。

◆モグアイくんは?

モグちゃんはね…。ずっと結成当時から一緒なんやけど、いちばん大人っていうか落ち着いてるね。マイペースな人やけど、やる時はやる。かまいたちでいえば、おとうさん。SCEANAは、東大を狙ってる受験生。カジーがその弟の不良のいじめっこ。で、僕がその家のペット(笑)。ちょっと離れた小屋にいるペット。そんな感じですね。

◆自分のことはどう思う?

よく雑誌とかで「おとなしくて優しくて、ホントにみんなから好かれてるいい人」っていうんやけど、誰も信じてくれへん。俺のメンバーは、ワガママで自分勝手で「ほんま、ケンちゃん、俺等のことも考えてーな」っていうかもしれないけど、そんなことはないですよ(笑)。いつもみんなのことを考えてるいい人です。典型的なAB型でね、明るい時はメチャ明るいんやけど、すぐ落ち込んだりします。回りから見るとおおざっぱな人間に見えるんやろけど、神経質なとこもあってちょっとしたことでもそのことばっか考えて黙り込んでしまうこともあって。そういう時、他のメンバーは気を遣ってくれるんで、悪いなあと思ってます。あと、突然わけもなく暴れたり、問題児ですね。

◆好きな女の子のタイプは?

森高千里、工藤静香、浅香唯、WINKの相田翔子、田中美佐子……俺、アイドル歌手が好きなんで、いいだしたらキリがないです。でも、でしゃばりじゃない子が好きですね。

◆面食い?

僕、メチャ面食いですよ。お人形みたいな子が好き。

◆最近は撮影とかで、スカートをはいてることが多いようだけど。

そう。よういわれるねん。昔は皮ジャン着てからマスクとかしてたのに、最近はスカート着たりして、「ケンちゃん、丸くなってなぁ」って。でも、違うの。僕は似合ってへんかもしれないけど、なんでもありっていうとこを見せたいの。今でも、ガーゼシャツや鋲の打った皮ジャン着てることもあるし、スカートはいてるだけで「女っぽくなった」とか「女になりたいんじゃないか」って(笑)いわれるのはヤだな。ただ、いろんなバージョンを見せたいだけ。だから、スカートもいろんなもの着たい中の一部だと思ってもらいたいです。

◆自分で選んでいるの?

うん。撮影の前の日は、家で姿見を見て、「明日はこういうカッコしよう」って決めて、それをボストンバッグに詰めてくるんです。俺、そういうのが好きやから。ドラム練習するより、服を考えたり、こうやってしゃべっているほうが好きなんです(笑)。

◆そういえば、原稿も書いてるしね。

原稿、書くの好きなんですよ。今までやったライヴの写真とかも、ちゃんとファイルしてあるし、そういうのを見ながら原稿を書くのは楽しいですね。そういうとこだけ、几帳面みたい。自分だけの楽しみだったらおもろないかもしれへんけど、それが世の中に出ていろんな人に笑ってもらったりするのは嬉しいですよ。自分の書いた原稿で、他の人に何かを感じてもらえたらメチャ光栄やと思うから。ミュージシャンは、そんな邪魔くさいことは好かんっていう人が多いみたいやけど、僕は好きやし、これからも書いていきたいです。

Photo Mamoru Kitahara

AURAの皆様へのアンケート

お名前

Q 最近観たLIVEで一番良かったものをひとつ

東京ドームでの ローリングストーンズ

Q 最近気に入っているCD BEST3

① [illegible]
② アンドレ・ギャニオン 「[illegible]」
③ アンドレ・ギャニオン 「[illegible]」

Q 最近凝っている事は？

何もない

Q 最近気に入っている服は？

黒い服

Q ストレス解消法は？

とんでる飛行機をとめて、[illegible]を買いに行く
とんでる飛行機の窓から顔を出して 歯をみがく

Q バンドをやっていて良かったと思うときは？

別にない

Q 夏のイベント、キャンペーンで印象に残っている出来事、又は会場は？

[illegible]

Q その他エピソードなどあったら教えて下さい。

[illegible]

Q セカンドアルバムのレコーディングに入り、しばらくファンの前へ姿を現さなくなりますが、ファンのみんなへ一言

[illegible]

Q アルバムのレコーディングに際して、曲または詞などを書いていますか？（何曲ぐらいなど……）

10曲ぐらい ラフに

Q セカンドアルバムの構想などありますか？

別にない

Q 今後、AURAをどのようなバンドにしたいと思っていますか？

わからない

Reds

AURAの皆様へのアンケート

お名前　ピー

Q　最近観たLIVEで一番良かったものをひとつ

ポール・マッカートニー　ローリング ストーンズ

Q　最近気に入っているCD BEST3

① サージェント・ペッパー　ビートルズ
② アームチェアー・シアター　ジェフ リン
③ 理想の響き　バッフォバッフィ

Q　最近凝っている事は？

インド

Q　最近気に入っている服は？

民族衣装

Q　ストレス解消法は？

音楽を聞く

Q　バンドをやっていて良かったと思うときは？

悪かったと思った時はない！

Q　夏のイベント、キャンペーンで印象に残っている出来事、又は会場は？

全ぶわすれてる

Q　その他エピソードなどあったら教えて下さい。

NO！

Q　セカンドアルバムのレコーディングに入り、しばらくファンの前へ姿を現さなくなりますが、ファンのみんなへ一言

好きな人は好きでいて下さい

Q　アルバムのレコーディングに際して、曲または詞などを書いていますか？（何曲ぐらいなど・・・）

Yes.　たくさん

Q　セカンドアルバムの構想などありますか？

いい音楽

Q　今後、AURAをどのようなバンドにしたいと思っていますか？

big.

Pie

AURAの皆様へのアンケート

お名前　マーブル

Q 最近観たLIVEで一番良かったものをひとつ

ストーンズ

Q 最近気に入っているCD BEST3

①今井美樹の新譜
②アートレ ザ キャニオン のlife
③オーラのセノーラス

Q 最近凝っている事は？

ゴルフ

Q 最近気に入っている服は？

スーツ

Q ストレス解消法は？

お酒を飲む

Q バンドをやっていて良かったと思うときは？

女の子にもてる時

Q 夏のイベント、キャンペーンで印象に残っている出来事、又は会場は？

大阪でのイベント（野外で死ぬ程暑かった。）

Q その他エピソードなどあったら教えて下さい。

夜中に、酔っぱらって、神戸の海を泳いだ！（服を着たまま）

Q セカンドアルバムのレコーディングに入り、しばらくファンの前へ姿を見さなくなりますが、ファンのみんなへ一言

いつまでも応援してください

Q アルバムのレコーディングに際して、曲または詞などを書いていますか？（何曲ぐらいなど・・・）

はい（4.5曲）

Q セカンドアルバムの構想などありますか？

ありません?!

Q 今後、AURAをどのようなバンドにしたいと思っていますか？

かっこいいバンド。

AURAの皆様へのアンケート

お名前

Q 最近観たLIVEで一番良かったものをひとつ
エアロスミス

Q 最近気に入っているCD BEST3
① 長渕剛 "JEEP"
② ZIGGY "KOOL KIZZ"
③ THE 真心ブラザーズ "ねじれの位置"

Q 最近凝っている事は？
カラオケ

Q 最近気に入っている服は？
[illegible]ファッション

Q ストレス解消法は？
マージャン、パチンコ

Q バンドをやっていて良かったと思うときは？
長髪でいれること

Q 夏のイベント、キャンペーンで印象に残っている出来事、又は会場は？
どこへ行っても飲んだくれ。

Q その他エピソードなどあったら教えて下さい。
とにかく飲んだくれ。
（[illegible]、津田君[illegible]）

Q セカンドアルバムのレコーディングに入り、しばらくファンの前へ姿を現さなくなりますが、ファンのみんなへ一言
とにかく ガンバります。
ヨロシク

Q アルバムのレコーディングに際して、曲または詞などを書いていますか？（何曲ぐらいなど……）
ぼちぼちと・・・

Q セカンドアルバムの構想などありますか？
おしえない。

Q 今後、AURAをどのようなバンドにしたいと思っていますか？
カッコイイバンド。

COBRA

YŌSUKŌ

NAOKI

PON

KI-YAN

写真／今井俊彦

VOCAL
Date of Birth : 1965 June 15th
Place of Birth : Hyogo JAPAN
Blood Type : O
インタビュー／小島 智

自由に参加できるっていう、本来、ロックってそんなもんだと思うんですよ。

サウンドの幅はぐんと広がりながらも、全体的なカラーは随分統一された。強いて言えばパンク色豊かな作品になっている、なんていうのがコブラの2作目、『CAPTAIN NIPPON』の印象だ。脱ジャンルが叫ばれて久しく、〝パンクの意味など最近の日本では本来のものから180度以上も変わってしまった中、あえてこうしたスタイルにトライし続ける彼ら…。今では珍しく純度の高いパンク・バンドを目指す彼らの、そんなこだわりについてヴォーカルのYŌSUKŌに訊いてみた。

●YŌSUKŌさんのパンクとの出会いってどんなもんだったんですか?

僕は完全にファッションからですよ。その前にはフォークとかハードロックとかずっと聴いとって…、で、回りにヤンキーが増え出した頃ですね。僕もツッパろうかとか、思ってた時にクラッシュのステージ観まして。〝おっカッコええな〟って。

●その時の衝撃ってどんなものでした?

んー、あんまし難しこと考えなくて、言いたいこと自然に言える、てのが好きやったな。当時はムーヴメントがどうのとか、難しいこといろいろ言い出した奴もおったけど、最初はあくまでファッションやったし。

●モヤモヤした気持ちを代わりに言ってくれるとか、擬似体験できるとかは?

代弁者みたいな。そういうのに対する憧れは持ってなかったな。とにかくカッコいいと。

●特別な音楽だって意識はどうでした?

それはあったかも知れんですね。それでバンドやり始めたわけやしね。まあ、でも……それも自然に〝やろう〟って気になっただけやし、あんまり難しく考えなかったような気もするな…。

●ふーん、でも、コブラって一度活動は休止してるけど、かなりキャリアは長いですよね。結成して10年近くになると思うんだけど。その間、執拗にパンク・スピリットだけにこだわり続けてるように周りからは思えるんですけど。

まあね。最初、コブラはパンクのスタイルを正統に再現しよう、てことで始めたから…。

●バンドって普通、変わるじゃないですか。日本だと、パンクから始まったバンドはどんどんストーンズっぽい、いわゆる王道の方へ向かっていくもんだけど、コブラは違いますよね。どんどんマニアックな方へ行ってる。

まあ、最初もかなりマニアックで、英語でやってたりしましたけどね。でも、インディーズが流行った時で、回りのバンドがどんどん売れ出して……、何かとり残されたような感覚になって、その後に音楽性変えたりもしたけど、やっぱり1年位前にね、昔の連中とまた出会うて、Oiパンクできるようになってからはすげえいい感じになれましたしね。

●そう言えば休止前には結構ポップなものもやってたとか。

もう、歌謡ポップスですよ(笑)。それもすげえ、ダサいやつ。周りがどんどんメジャーに行ってるのに何で僕らだけ行けへんのやろってことで、もう一歩飛び越したことをやったろ思たんですけど、それが大きな間違いやったな(笑)。

●結局ルーツに戻るしかなかった、と…。

そうですね。で…、自分にはパンクしかないな、と感じたし、とにかく一番性に合うてる。それ変な話、そうやって元に戻った時って、自分らが評価される自信っていうのも、あったんですよ。

●ほう。自信が。

はい。パンクってジャンルの中では結構、しっかりした美意識、持ってるつもりやったしね。絶対にピカ一のもん、表現してるって、この感覚はわかってもらえないと嘘やな、と。

●でも、その頃って、YŌSUKŌさんが思ってるパンクと日本で広まり出したパンクがどんどんかけ離れてった時期じゃない?

うん、だから一般的になるかどうかは別ですよ。要するに売れるってことでなくて、わかってる連中にはわかってもらえるだろうっていう。そういう状況だからこそ逆にね。

●なるほどね。でも…、そういう、あくまでも正統派、ってやり方もいいけど、やっぱりそこに何かオリジナリティを盛り込んでいかなきゃ意味はないじゃないですか。単なる再現ってだけじゃね…。

あ、それはですね…、僕は結構マニアックな人間なんだけど、バンドを通すと全然違ってくるっちゅうかね。バンドの内部のことを話すのもアレなんやけど、いつも僕が出したイメージをポンが詞にして…、で、メンバー全員でアレンジするってやり方で曲は作っていくんですけど、そうなった段階で知らんうちにオリジナリティは出るもんですからね。

●バンドのフィルター通すと…。

そうですね。だから決して売れたくないってわけじゃないですよ。

●大衆性と音楽性のバランスはとれてるっていう。セカンドの『CAPTAIN NIPPON』で、イギリス民謡っぽいタッチの曲なんかも入ってるけど、その辺はその表れなんでしょうかね?

うん、その辺は自然に出てきたもんなんですけどね…。まあ、Oiパンク自体がマニアックなものですからね、これまで自分が影響受けてきたものを自然に出しても、結構、変わったもんができてくると思うんですよ。まあ、それも一つの特徴ですけどね。

●結構明確なイメージってあるわけですか。YŌSUKŌさんがこれからやっていきたい自分なりのOiパンクって。

んー、それは難しいな。言うたら1枚目も2枚目も、いろんなスタイルの曲、入ってますけど、あれも全部が僕らなりのOiですからね。だから、こう…、自分にとにかくしっくりくるもんって、それしか言えんですけど、逆に何やってもいいっちゅうかね。

●アルバム作ってる時なんか、これ以上やっちゃうとOiじゃなくなっちゃう、とか、気を遣ったりはするんですか?

いや、それはないです。僕なんか、〝こんな音はOiじゃない!〟とか思ってても、それを自分の好きなOiのバンドがやってたりしたら、次の日からOiだと思っちゃう方ですからね(笑)。それに…、僕ら4人ともOiに対する解釈って違うし…、だから4人でしっくりくるっちゅうもんを求めるって、そういうやり方でやってるだけですからね。ただ…、気を使う点っていうのは言葉のパワーっちゅうか、わかり易い言葉をうまく使うってことには注意しますね。ライヴなんかで皆で合唱できる、みたいなね。

●ライヴで合唱、その辺がポイントなんですか。

うん、やっぱ、自由に参加できるっていう、本来、ロックってそんなもんだったと思うんですよ。バンドも客も、全員が参加した時にグワーってパワー持つようなね。そういう曲をいつも作りたいとは思ってますね。

●なるほどね。ところでYŌSUKŌさんが一番強く影響を受けた人っていうのはどの辺になるんですか?

クラッシュはすげえと思ったけど…、ホンマに影響受けたのはやっぱりOiパンクの人ですね。それも、あんまり思想的な奴でなくて、単に楽しんでやってる奴ら。コックニー・リジェクツとかジミー・パーシーとか…。

●最近、バンド以外で凝ってることとかはあります?

んー、あんまり趣味がないもんで……。

●そうですね。これは結構意外だったんだけど、今日話を訊いて、わりと音楽一筋の人だなって気はしましたよ。

ですか(笑)。まあ、強いて言えばマンガぐらいですかね。どおくまんの。

●他の3人について何かコメントをいただきたいんですが……。

はい。えーと、まずポンは、やっぱり作詞家としてすげえもん持った奴だと思いますね。感受性がものすごい豊かっていうかな。まあ、ベーシストとしてはわからへんけど(笑)、人間的にはホンマ、尊敬できる奴だと思います。昔、僕なんか面倒みてもらいましたしね。

●ナオキさんは?

こいつは口達者な奴やな(笑)。インタビューなんかではすげえうまいこと言う奴で、その辺、僕も見習わなあかん思いますけど…。で、ギタリストとしては変なバックボーンのある奴じゃないから、すがすがしくて好きですね。ほら、バックボーンのある奴って考え込むタイプ、多いじゃないですか。

●妙に理論を気にしたり、とか?

そう、そう。で……、キーヤンは職人やね。彼は僕がポップスやってる時に入ってきたんやけど、すげえ器用なんですよ。本人はこれ言うといやがるんやけど(笑)、昔、ホテルのラウンジで演奏してたことがあるくらいで。当然、譜面もきちんと読めるんやけどね。

●ほう、それは珍しい。

ウチはその辺バッチリですよ。ナオキも初見でギター弾けるしね。

●譜面の読めるパンク・バンド。これって世界的にも珍しかったりするんじゃないですか?
(笑)

(笑)。まあ、その辺がチンピラのパンク・バンドと違うって所やないかな。

●なるほどね。それじゃ、これが最後の質問です。今、YŌSUKŌさんにとって一番エキサイトするものは何でしょう?

んー、やっぱりステージですね。結局、Oiにしろパンクにしろ、すげえワン・パターンなもんなんやけど、それでもどんどん広がっていけるのがステージじゃないですか。で、そんな時の興奮ではすべてを忘れられるっていうかさ。そういう瞬間って、やっぱりかけがえのないものがありますよね。

いつまでも直球で勝負できるバンドでいたいと思てるんですよ。――村田兆治みたいにね(笑)

GUITAR
Date of Birth : 1965 June 18th
Place of Birth : Osaka JAPAN
Blood Type : A
インタビュー／かこいゆみこ

●バンドを始めたのはいくつの頃ですか？

一番最初にバンド始めたのはヴォーカルのヨースコウと一緒に、15の終わりぐらい。中学の頃からずーっとヨースコウとは一緒やって、同じフォークソング部に在籍しとってね。

10年以上前になるかな。それまで俺、別に音楽やる気なかったんやけどね、野球やりたかったんやけど、中学入ってクラブ入ろう思たら丸坊主でしょ。それが嫌でやめて、やることなくなってもうてね。ほんだら本当偶然やねんけど、TVで河島英五を見てね、何や知らんけどギターが弾きたくなって、それから独学でギター始めて。中1から3年間はフォークソング部にいて、そこでヨースコウと知り合った。ヨースコウはもう中3ぐらいからロックにかぶれてたから、高校入ったぐらいからニューウェイヴ、パンクってずーっと聴き出して、バンドやりたいやりたいって言っててね。そこで地元でギターが弾ける人間がそんなにいないんですよ。それで頼まれたのがきっかけ。だからあいつと出会わんかったら、バンドやってないかもね。

●それ以来ずっとパンク一筋？

うん、今までずっと、10年やり続けてしまったっていうね。変にメタルとかコピーしてなくて、チャラチャラしたギターじゃなかったから、誰々の真似をしてギターを学んだいうのはないからね。だからすごく入り込んだアーティストっていないんですよ。いつでも入り込んでるのは自分のバンドだったから。

でもとりあえずパンクの中では好きやったのがクラッシュだったから、全部コピーとかはしたけどね。

●パンクの姿勢とか精神に魅かれたりした？

精神論は一切なし！ 強いて言うならビジュアル。最初クラッシュのビデオばっかり見ててね、カッコええねん。そっからはもうヨースコウと一緒にバンドやるようになって、当時アマチュアバンドで色々名前変えてやってきて、高2の17才ぐらいの時にコブラっていうのを作った。その頃からOiパンクっていうのをやり出してね、オリジナルでバンバンライヴハウス回って。でも高校卒業した辺りで1回コブラやめてね。当時関西のハードコアシーンが盛り上がってる頃だったから、ラフィン・ノーズから声がかかって、そっちの方に入ったわけ。そっからが早かったでしょ。ラフィンに参加して1年後東京でデビューしてたからね。

●そのままコブラを続けていたら、Oiパンクは関西で定着していたかな。

どうやろな、今だからええんとちゃう？ よく解らんけど。コブラも最初ハードコアから始まって、モロ、ディスチャージっていう音だったんやけど、それからすぐOiに転換して、けっこう異色のバンドやったんですよ。

今の聴いてもらったら解るようにポップなサウンドやったから、当時から団結して一緒に歌えるような曲やってたからね。

●今回の『CAPTAIN NIPPON』を聴くと楽曲のバリエーションが広がってきてるでしょ。バラードがあったりシャッフルがあったり。

あれもOiなんですよ。Oiを追求するとマッドネスまで下がって、スカからの流れでOiっちゅうのが来てるから、そういうのでちょっとサックス系も入れてみたんやけど、シャッフルで。ああいうバラードも、俺達のは歌わすバラードやからね。最後なんかリフレインでずーっと合唱でしょ。ああいうのも向こうではよくあるんですよ。バラードやのにすっごい歌詞やからね。「死ぬ気で行け」とか「清く正せ」とかね(笑)。

●日本人にありがちなジメッとしたメッセージ性がなくて突き抜けてて気持ち良いんですよ。

まあ、それだけ熟練っていうんじゃないけど積んできて、ここまでやってきた貫禄もあれば、出てる言葉はホント素直な表現やから。

●音に説得力がありますよ、コブラの場合。

うん、単純に音固めてる人間も、もうパンク10年以上やってきた連中だし、皆苦労してきたし、メジャー経験もあるし、俺個人的にもレコード会社3社目だし(笑)。で、今度入ってきたドラムのキーヤンもすっごいうまいから。ジャズ上がりでテクニックもあるし、ドラムでゴハン食べてきた人やからね。苦労人の集まりのバンド(笑)やね。

●他のメンバーについては？

ヨースコウはミュージシャンとして天性のもんがあったね。ええ声しとるなぁ思たしね。声太いし、ヴォーカリストとしての才能は充分あるし。彼はクラッシュの物真似したらベラボーにうまかった。英語でメチャメチャ歌ってんやけど、ホントその通りキレイにジョーの歌い方とかコピーしてくるねん。やっぱああいうのは才能やろね。声質の良さは天性のもの。凄い奴やと思った。人間性でもね、ずっとバンド一緒にやってて、一回離れてもう一回戻った仲やから、何か運命的なものもあるのか、ずっとやっていくのかなあと(笑)。どこのバンドにもいないタイプのヴォーカリストやからね。変にネガティヴな方向には走らないし、ステージも普段もそのまんまで、アホなこと言うて場を盛り上げるムードメイカー的なとこもあるしね。

PONは天才。天才バカポン！(笑)バカやけど天才やねん。個性キツイですよ。物真似でもないし、彼の書く詞って凄いですからね、やっぱり。だから俺いまだに彼と一緒にバンドやってるし、6〜7年一緒にいますからね。

ミュージシャンとしては全然です(爆笑)。ただパフォーマーだし、存在感が凄い。アク強いですからね。彼はね、完全なるパンクスなんですよ。年季入りまくりの15年選手ぐらいのパンクスやから。彼にはパンクしかないんです。28でスキンヘッドですよ(笑)。

●存在そのものがパンク。

だからああいう表現も彼流のパンクの前向きな表現というか、元気で明るい良い意味でポジティヴなパンクおじちゃん(笑)みたいなね。

彼のファッションって一貫してずっとイギリス・パンクなんです。彼はアメリカ・パンク大嫌いですから。ラモーンズなんてドラッグ・ロッカーみたいで気合いが入ってない。

俺等基本的にノー・ドラッグバンドやからああいうのをネガティヴ・バンドと呼んでるんですよ。体力のないバンドは全部ネガティヴやと思てるから。いつまでも直球で勝負できるバンドでいたいと思てるんですよ。ロッテの村田兆治みたいにね(笑)。俺等は男くささとか汗とかそういう良さを語るようなバンドやからね。だから体力がなくなれば終りっていう、ストレートでグイグイと押していくバンドやから。ヘンに逃げるのは簡単ですよ、ジャマイカの要素入れてみようとか、そうやって逃げていくR&Rバンドは沢山いるでしょ。変に精神面に逃げたりとかね。でも俺は単純な感動の方が好きやから、そういうバンドをやりたくてね、良いメンバーが集まったかなあと。

●今回のレコーディングはどうでした？

メチャクチャ早い。正味のレコーディング期間は10日ちょいぐらいやない？ 1曲につき3時間とか4時間とか、もう回りくどいこと考えないですよ。やりたいのはOiパンクやし、ノリとしては一発録り。特にキーヤンに関してはホントにプレイヤーとして凄いから1テイクか2テイクで終わってるんです。正味10分かかってないですよ。その後にPONがちょっと間違えた所を差し替えするのに30分、ギター・ダビングがソロ、オブリ関係含めて全部やって1〜2時間。あとコーラスを10分ぐらい入れて終わり。その辺はもうリハーサルでやってきてますしね。で、ウチのバンドの良い所は、たとえば作曲者がスタジオで「今ヒラめいたからあと2時間延長して」とかそういうのがないんです。4時間スタジオ取ったら、その4時間で勝負をつける。できなかったら家で考えてきて翌日答えを出すという。それはやっぱり全員を同じテンションに置いておきたいからね。

●作詞はPON、作曲はヨースコウ、アレンジはNAOKIと役割分担が明確でしょ。でもクレジットは「COBRA」なんだよね。

そう、これもバンドの美しい形を取りたかっただけなんやけどね。汚い話になると印税のことになるけど、よく印税一人占めするような、「じゃバックって一体何?」ってことになるでしょ。そしたらバックはバンドに対する意欲が薄れるはずですよ。いくら友達でも一千万の収入と20万の収入じゃ生活変わるし性格変わるし、同じテンションで会話ができなくなる。そう考えるとやっぱりクレジットは「COBRA」で収入も均等にした方が気合の入れ方も違ってきますからね。

●ところで音楽以外の趣味は？

全く無し。昔の名残りで野球見るのが好きで、野球場に足運んだりするぐらい。今はスター選手がいないから、昔ほどのホームランキングが50本ぐらいで争ってるという時代じゃなくなったけどね。でも見てるとそれなりに面白いですよ。自分でもバッティングセンター行くよ。ライヴの前はせえへんけど、体痛いから(笑)。

●じゃあNAOKIさんにとって最もエキサイトすることは？

エキサイトするのはもうライヴしかないですよ。何せバンドの形を取って動く時、ストリート・バンドですからね。ビジュアルは気にしますよ。俺、曲作りのアレンジをしてる段階っていうのは、ステージの絵ヅラも浮かぶんですよ。ここでジャンプ決めたらカッコエエかなぁ思たら、キメのアクセントを作るんですよ。それぞれにおいしいように、いろんな風にアレンジ考えます。頭の中はもうずーっとバンドのことが、支配してるから。バンドが楽しいことの表われやからね、それは。

●将来的に目指すことってありますか？

自他共に認めるナンバー1ですよ。賛否両論どうあれ、一部がボロクソ言っても関係ない、俺等は自分の信じてることを、好きなことをやっとるだけやからね。

BASS
Date of Birth : 1962 September 13th
Place of Birth : Osaka JAPAN
Blood Type : A
インタビュー/堤 昌司

精神的なパンクなんて興味ない。派手なファッションとハードな音楽がパンクだからね。

●最初に意識的に聞いた音楽は?
エルヴィス・プレスリーですね。小学校2年生の時、お母ちゃんが好きでしたから。当然一緒に歌ってましたね(笑)。その後はストーンズやね。『イッツ・オンリー・ロックンロール』の頃。ただ聞いて暴力的になれるから嬉しかってん。ストーンズなら来そうやなと思って買うたら、メチャ暴力的だったから、これやこれやって。ものすごいどうでもいい気分になれるように高揚させてくれた。

●中学校でパンクですか。
パンクが出たんが中3ぐらいで、そこから真剣に音楽聞き始めたんやね。出た時点でストーンズとかどうでも良くなったもの。

●パンクはやっぱりピストルズ。
そやね、ロンドン・パンク。ラモーンズとか前から聞いてたけどピンと来なくて、ロンドン・パンクの暴力性はこりゃいいわって。

●その頃は洋楽をかなり聞き込んでいたんですね。
思いっきり聞いていたね。そやからパンクが出る前には自分でパンクに近いものを探していたもの。

●じゃ、聞いたらすぐこれだと。
そうそう。パンクになるしかないなって。で、ベースを手に入れてすぐバンド始めたんですよ。

●それは学校で?
いやいや。パンクのブティックに通っていたから、そこで友達になって。

●まさにロンドン・パンクですね。
そやね。こっちは子供の時からロンドンでしたから。

●じゃ、格好から入った。
当然でしたね。友達はみんなヤンキーばっかりやったんね。クールスとかキャロルとか聞いてそういう格好してた。僕もそうだったから余裕でパンクに交替できたねん。この感じでパンクやったらもっとスゴイだろうってすぐ髪の毛立たせて。

●楽器の腕はどうだったんですか?
オリジナルやっとったから、コピーとか出来ませんでしたね。

●最初からオリジナルですか?
生真面目なパンクスやったから、本を見てコピーしたらあかんと思ってた。せやから自分ではパンクやってるつもりでも、傍から聞いたらオルタナティブ・ミュージックやってるように聞こえたらしい。だからヘンに評価されたもの。それはNASHIっていうバンド。ギターの子が強力なパンクのヤツで、そいつがヴォーカルやってた。今はフランスでプロデューサーしてますけどね。

●ライヴハウスに高校1、2年で出ると若いでしょう。
そうそう。あの当時はキャリアとか関係なくて、若いだけでスゴイと思われてん。しかもファッションはバリバリ。地味なヤツ多かったねん。俺らはかっこいい原色のロンドンシャツで若いやん。16だから。リアリティあるの。外人みたいにもてはやされた。

●これしかないなっていう気はその時から。
当然ありましたね。東京ツアーしたり調子に乗っとったもの。地元でもラフィンノーズより僕らの方が人気あってん、完全に。ラフィンが前座やったもの。チャーミーが俺らとやると人が集まるから一緒にやりたがる。ギターのヤツがヘンコで、チャーミーが気に入らなくていつも喧嘩してるのを俺が止めていた。「やめな自分ら!」って(笑)。

●いちばん影響受けたのは?
パンク全部やね、ロンドンの。だからこれといっておれへんね。ロンドンの派手なファッションのパンクバンド。派手なファッションの方が音もエグイもん。イーターとかジェネレーションXとかドローンズとかB級のえぐいパンクばっかり(笑)。

●そのバンドはどのくらい続いたんですか?
5年くらいやね。最後の頃パンクじゃやなくなってきた。ギターがメチャ感覚の早いヤツで、初期パンクの頃にオルタナティブに行って、俺が追い付いた頃には勝手にハードコアに行って、みんながハードコアで盛り上がってくると、ジェファーソンスターシップとかバーズとか聞き始めて、こりゃパンクじゃないからやめたって(笑)。今そいつはワールド・ミュージックやってるからね。

●音楽以外の趣味は?
ありませんね。ファッションも音楽と一緒だからね。

●かなりのレコード・マニアで?
ラフィンがでっかくなるまでは流行の先端キャッチしとってん。でも、ハードコア以降ちょっと分からんようになった。ハウスとか(笑)。そやから不安やね。

●日本のバンドも聞いていたんですか?
あんまり聞いてませんでしたね。パンクぽいのでデビューするバンドも、僕の目から見ると全然パンクちゃうかったから。アナーキーとか、もうダサイの一言やね。クールスは最高ですよ。あのライフスタイル、暴力性に比べたらアナーキーなんか近所のケンカの弱い中学生みたいやね(笑)。聞く気になれへんかったもん。

●COBRAについては。
今、いちばんトレンディなパンクがO・iパンクなんですよ。実際ボウズ流行っているしね。時代の流れにバッチリはまっている感覚あると思うよ。いわゆる最先端みたいには見えへんけど、実は超最先端スタイルがO・iパンクやという気持ちありますよ。

●テレビにも積極的に出ていますけど。
いや、最初テレビに出るとか考えてなかった。とりあえずO・iパンクやるしかないというだけ。ただO・iがここまで受け入れられたってことは時代性があると思うよ。一見古いスタイルに見えがちだけどね。実際ロンドンはスキンとハウスしかないみたいやしね。

●ロンドンのスキンってもっと暴力的な感じがするけど。
いや実際はそうでもないよ。みんなオシャレだし。暴力的なんはNFっていう右翼と重なっているヤツで、あれは音楽と関係ないみたい。バンドやったり意識的に動いているのにNFのやつはおれへんしね。

●作詩は以前からしていたんですか?
ラフィンノーズの時に3~4曲書いてるけど。COBRA始めるときにYŌSUKŌが「PON歌詞書けるやろう。俺曲書くから」って。ほんで「よし分かった」って。

●書いてみるとドンドン溢れ出る?
うん。曲が出来てるといくらでも乗せれるね。曲がなかったら考えられへんけど。普段考えてることやメンバーと話してることが曲になるねん。COBRAの音楽って、いつも俺らの話題とか感覚とマッチングしてるからね。どれを持って来たらいいのかパッと分かるんですよ。もし、全然違う人の曲を持ってきたら、自分のストックとマッチする物がないから、頭で考えなければならなくなって時間がかかるだろうね。

●最初にバンドを始めた頃と今とパンクに対する気持ちは変わってきていますか?
パンクバンドっていう執着が年々でかくなってるね。もうこれやめたら後悔するだろうなっていう気持ちがでかくなっている。

●パンクやめるということは、例えば何やってもパンクだっていうのではないんですね。
違うね! ウン。ファッションとハードな音楽としてのパンクやね。よく精神的なパンクとかいう人いるけど、全然興味ないね。そんなの大人の言うことだからね。パンクの辞書に大人なんかないからね。

●でも年齢的に大人になっていますよね。そうすると、以前とぶつかる相手が変わってきませんか?
変わってきえへんね。変えたくないからこういう道進んでんねしね、パンクを職業とした。メチャクチャな言い方やけど。15・16のままでずっといたいから。その状況を持続させたいんやね。

●だから今度のアルバムでも聞き手と目の高さが同じ。
完璧ですね。もしかすると俺らの方がピュアな分、聞いてる方が大人かもしれないね。

●セカンドは前作よりもバラエティに富んでいますけど。
ファースト出した時には、次のアルバムがこれを越えられるかと心配したけど、越えられましたね。別に意図的に広げたわけやないね。もう他にパターンないからね。スカパターン、リアルオイ、バラードで合唱パターン出したし、あと詩の朗読ぐらいやね。これ以上は広がりませんよ。

●これ以上広げるとパンクじゃなくなる。
そうそう。精神的パンクとか言わなあかんようになる。完全に言い訳ですよ、あれ。生き方に完全に密着してますからね、恥ずかしいほど。この年になってこんなこと言ってるとは思えへんかった、ちんまい時。それがビックリするほど密着してひどいもんだ。

●他のメンバーについて一言。
YŌSUKŌクンはアーティストやね。すごい繊細やね。NAOKIクンはオトナ。しっかりしてるの。KI-YANは職人。超一流の職人。音楽で残れるのKI-YANちゃうかな。僕はこのままパンクで行きたいね。パンクバンド止めたくないねん。それに変わるもの見つけれないしね。

●今の他のバンドで同じ感覚だと思うのは?
ブルーハーツ。それと、ニューロティカも意外と感じるね。ただバンド転がしてるだけのハウンドドッグとかは決定的に違うね。何がやりたいのか見えてこないものね。

●ただプレイしたいとか。
違うね。ちゃんとしたバックボーンが欲しいね。えぐいヤツが。そういう気持ちで何年もやってきたから、それを大事にしたいね。

●あなたにとってエキサイトすることは。
服選んでいる時とレコード買っている時。

DRUMS
Date of Birth : 1967 January 14th
Place of Birth : Osaka JAPAN
Blood Type : A
インタビュー／竹内美保

仕事がドラマーみたいなのは嫌。〝ええドラムを叩く凄い人〟になりたい。

●最初に音楽に触れたきっかけは何ですか?

一番最初はね…幼稚園の時にやらされたんですよ、鼓笛隊みたいのを。ホントは大太鼓やりたかったんですけど、身体がちっちゃかったから小太鼓やらされて。その後、小学校1年生の時にピアノを習ったんです。

●ピアノを習おうと思ったのは何故?

姉が習いだすっていう時に僕も習おうと。別に〝やれ〟とか言われたんじゃないんですけどね、何となく。すぐやめてしまったんですけどね。1年か2年位で。やっぱり遊びたい盛りでしょ(笑)。

●今になって〝もうちょっとやっておけば良かった〟とは…。

思いますね。まだやりたいなと思ってるんですよね。ま、ただその頃から興味はあったのかなとは思いますね、音楽とか音とかに。

●その頃は何を聴いていたんですか?

いや、聴いてなかったんです。自分で音楽を聴き出したのは小学校4年位だったですかね。姉が聴き出したっていうんがあって、あの頃にはやり出したキッスとかクイーンとかエアロスミスとかあの辺ですね。それからツエッペリンとかクリーム。

●それは幾つ位ですか?

中学入ってから。ツエッペリン、パープル、クリーム、〝ジミヘン〟…。そこから後はジャズ聴き出しましたから。で、ツエッペリン聴き出してからドラムが恰好ええなと思い出したんです。ライヴの映画とかありますよね、あれを観に行ったんですよ。

●ボンゾが後々のドラマー人生のきっかけ?

あの人を観たからドラムやりたいなと思ったんですよね。とにかくドラムのインパクトが凄く強かった。中1位にそれがあって、中3でドラムやり始めて。フォークソング部が体育館で発表会やる時に出させてもらって、クリームの曲やったりしました。

●ジャズの方へはどういう風に? クリームから行くっていうのは解る気はしますけど。

ジャズ的要素で叩いてはるでしょ、ジンジャー・ベイカーが。結構ジャズとかフュージョンでも、ロックの人達とも演ってる人達のから聴き出したんです。トニー・ウィリアムスとかビリー・コブハムとか。ホラ、ビリー・コブハムはジャック・ブルースとかと演ってたりしたから。

●ジンジャー・ベイカーの影響は大きいんですか?

いえ、僕自身のドラムに影響があるのはジンジャー・ベイカーよりもトニー・ウィリアムスとかビリー・コブハムですね。あの辺はやっぱり一生懸命コピーしましたからね。

●ジャズ・ドラマーからコピーするのって、大変な事の様な気がするんですけど。

半端にですけど、結構出来るんですよ。初めてドラム買って叩いた日に「ハイウェイ・スター」とか、もう結構叩けたんですよ。ロック系とかいうのだと、コピーとかいうよりも聴いたそのノリで結構叩けたんです。だから、もっと叩き方が解らんヤツを聴いて、で練習したりしてました。

●キーヤンさんは早くからライヴハウスに出てたというお話ですが。

高校入ったんですけどすぐやめまして、ドラムやりたかったしね…その頃ドラムに熱中してましたから。あの当時、もう結構叩けたんで、15歳位で20歳以上の友達と演ったりしてて。で、そのうちドラムで仕事が来る様になったんです。

●それはジャズが多かったんですか?

何でもやりましたよ。ジャズ、オールディーズ…ロック・バンドもやったし、歌手のバックをやったりとか。普通みんなが知ってる音楽のジャンルは殆どやりましたね。

●ビリー・コブハムの後、影響を受けた大きい波みたいなのはありましたか?

ビリー・コブハム長かったんですよ。で次は…色々いるんですけど、アヴァンギャルドとか好きになって、その辺とか。フリー・ジャズ系よりもちょっとロックのニュアンスがある方の。

●それはドラムから?

いや、それまでは〝ドラム凄い〟だったんですけど、もっと何でもアリみたいなね。自由っていう感じだから、ドラムという感じではないですね。もっと何やってもいいやんかみたいな世界をやりたいなと思った。仕事してると〝それやったらアカン〟とかいうの多いでしょ、それもあったんでしょうね。

●例えばジョン・ゾーンとか…。

ジョン・ゾーン結構好きなんで。もっと詳しく知りたいのは知りたいですね、今も。あんまり資料ないでしょ、あの人の一派は。

●結構日本に来てるんですけどね。

ピットインとかで演ってますよね。その辺…ジョン・ゾーン観に行ったりとか、あそこで山木(秀夫)さんとか演ってるでしょ? 山木さんが好きなんですよ。だから、フリーなっていってもあの辺の感じが好きなんですね。

●キーヤンさんはパンクは殆ど通ってないそうですけど、コブラに参加したきっかけは?

仕事しつつ、アマチュア・バンドともジャンル問わず付き合ってたんです。それの1つとして誘われて。だから色々やってる一環みたいな感じで。そやけどね、彼(ヨースコー)人間的にええ人やから。それでこの人とは…やっぱり楽しくしないと音楽もええの出来んなってその頃に思って。で自分自身の仕事とか、何かやらないかんからやってるみたいなのが多かったんで、全然ええプレイが出来てないなと思ってたんです。やっぱり気の合うヤツとやりたいなっていうんで他一切やめて。

●自由にやりたい気持ちが引き金になって?

それとやっぱり、19~20歳になってたんですけど、このままいくと地味な世界に沈んでしまうなと思って、この辺で抜けて東京行って頑張らんとって。コブラ誘われた頃には、自分でも東京行こうと思ってたから。

●サラリーマン・ドラマーにはなりたくない。

やっぱりこれ好きでやってるしね。で、凄いドラマーになりたい訳だから。ただドラムが叩けて仕事がドラマーみたいなのは嫌でしょ。〝あの人はええドラムを叩く凄い人やで〟みたいになりたい訳でしょ。コブラでもポーンと行きたいし、当然ずっとやりたいし。でもやっぱりドラマーとしても認められたいですからね。〝バンドはええけどドラムいまいちやな〟とか言われたら悔しいでしょ。やっぱりプロとしてやり始めてもう8年になりますから、そういう意地もありますよね。

●パンクはどういう風に受け止めてました?

コブラ誘われた時に周りから聞いてたのは〝パンク・バンドや〟と。で、凄くエネルギッシュな音楽でインパクトは凄いと。それまでチンタラ仕事関係やってたんで、逆にパンクなんで入りたいと思ったのもあったんですよ。攻撃的な、エネルギッシュなものがやりたいと思ってたんで、変なイメージはなかったですよ、パンクには。

●ところで、最近音楽以外で凝ってる事ってあります?

お酒(笑)。ホントね、本も読まないし映画も観ない。オフは家でボーッとしてるか飲んでるかだから。音楽とお酒だけですね、今は。

●キーヤンさんから見て他の3人のメンバーってどういう人達ですか?

3人共いい友達ですからね。うちはホント仲いいですから。ナオキは女みたいにガチャガチャ神経質で、あっち痛いこっち痛いっていうのは彼です。ポンは感覚的には一番子供っぽいかもしれないですね。でも、あの自然な感覚っていうのは凄いと思いますよ。ヨースコー選手は見かけによらず(笑)神経の細やかな。3人共気遣うタイプですけど、彼は特にそうです。だから常に人がいると気になるという…何か喜ばさなアカンとか。

●さて、アルバム『CAPTAIN NIPPON』についてですが。かなり早いペースでのリリースですね。

1枚目出来る前から曲作りってしてるでしょ。結構いっぱい出来てたまってるのがあって。だから短期にガーッてやった感覚はなくて、ある物を繋げる延長上っていう感じです。あとライヴとか演るでしょ。そうするとやっぱり1枚目だけだと12曲とか…だから知らない曲とかもある訳でしょ。今度、前からライヴとかで演ってる曲も入ってるから、ライヴの状態もやり易くなってきますよね。

●レコーディングは如何でしたか?

僕はすぐ終わりますからね(笑)。2枚目の方が気分的には楽出来ましたけどね。トロい仕事嫌いなんですよ。〝楽しい楽しい、あー終わり、OK〟とか、その方がずっとええモン出来ますし。僕、レコーディング・スタジオで煮詰まるとかそういうのないんですよ。好きなんです、レコーディング作業が。楽しいですよ、音楽を作る作業してるっていうのが。

●向こうのO・iとコブラのO・iの違いって、音的にはキーヤンさんのドラムが大きいんじゃないかと聴いてて思ったんですけど。向こうのって言ってしまえばワンパターンですよね?

そうでしょうね。僕だからO・iやとかパンクやとか意識しないで叩いてますから。自分の感覚でしか叩いてないですから。だから向こうのO・i風に…言うたらあまりうまくないですよね…演ってみてもいいものは出来ないです。僕の捉え方としては、ドラムのスタイルが違うだけでO・iじゃないっていう感覚は違うんじゃないかなって。

●最後にエキサイトする事を教えて下さい。

そういう感じかどうか解らないですけど、音楽のいいのを聴いてる時ですかね。倒れそうになりますからね、家で。座って聴いてて音楽がワーッと来る瞬間があるんですよ。そういう時に家で1人で倒れてますよ。それって多分エキサイトっていうんじゃないですか。

●もって行かれそうな瞬間ってありますよね。

ありますよね。あれがええから、やってるんでしょうね。

M.C. SPECIAL Vol.3

かまいたち

ライヴの臨場感が前頭葉にダイレクトに伝わると大好評のMCスペシャル。「次は誰の、いつのライヴ？」というさまざまな憶測の飛ぶなか、第3回ははちゃめちゃかまいたちをお届けする。9月9日、もちろん超満の東京・渋谷公会堂（収容人数2,318人）だ。

取材・構成　編集部

メンバー登場のSEが流れると、場内騒然観客総立ち、ほとんど総狂い状態に。

幕が開くと、ドレスを着てガムをかんでるCRAZY DANGER NANCY けんchanがすでに立っている。左手には赤い拡声器。

けん「**行くぞぉー。始まるでぇーっ！** 死ぬほど……(聴き取り不可能)……公会堂……しようぜ!!」

「……なんで……はちゃめちゃ……乗ろうぜ!!」(……部分、いずれも聴取不可能)

ステージ上のチェック部分が開いて、やったるぜェ～"KAZZY"さすけ、クレMOGWAI、そして舞台左ソデからSCEANAが登場すると、場内はすでにして最高潮。

M1 かMARCH (マグネシウム炸裂)

M2 NO THANK YOU

演奏が終わると、会場内にはサイレンが鳴り響き、観客のはやる気持をますますはやらせる。SCEANAのMC

「……みにくいあひるのこ……」(ほとんど、よく、わからない)

M3 みにくいあひるのこ

M4 Boys be Ambitious

終わってSCEANA、サイレンの中

「**どうも、こんばんは。**かまいたちでぇす」

M5 天邪鬼 (CO_2吹き上げる)

再びSCEANA

「ええ、あと、しばらくで、僕達のファースト・アルバムが、出ますので、良かったら、そのアルバムの方も聴いて下さい」

場内には、「キャーッ!! が渦巻き、KAZZY、MOGWAI、けんchanが「ジャーン」とキメる。SCEANAのMC

「ええ、ではそのアルバムの中から……「非行少年」」

M6 非行少年

M7 FACE TO FACE

終わってSCEANA

「行くぜぇ――っ!!」観客、手を上げてこれに応える。ライヴは一気に後半戦に突入。

M8 女心と秋の空

――SE――お囃子と笛が"ヒュー、ドロドロ"と場内を盛り上げ、けんchanはクネクネしながらスティックをクルクル回して観客を挑発(！)

M9 妖怪ROCK！

※SCEANA、ステージ左上の段に腰かけたまま歌う。

終わってSCEANAのMC

「……ええ、**こんなに、広いところで**演らしてもらえるのは……皆さんに感謝しておりまぁす」

KAZZY、ギターを軽く鳴らす。

「……ええ、じゃ、残り…少ないけど(客席から「エーッ!?」の声)よろしく…「TOY DOLL(S)」」

M10 TOY DOLL(S)

※演奏が始まると同時に前の方の席には、頭上から銀テープが舞い降り、ステージ左ソデから、おなじみのバルタン星人、ゼットン、ブースカ、グレムリンのぬいぐるみが踊りながら登場する。(中に入ってるのはもちろんスタッフ)。終わると同時にSCEANA叫ぶ

「おう、ラスト行くぜぇ――っ!!」

M11 自由の女神 (CO_2、吹く)

本編の曲目は全曲終了し、メンバーは楽屋に一度退場するが、けんchanは力が入り過ぎたのか、足がもつれる。

客席は「アンコール」の大合唱が続く。およそ7分後に、会場内に再びSEが流れ始めると客席は「キャーーッ！」で一杯。

衣装変えしてメンバー登場。SCEANAのMC。

「ヘイ、じゃ、アンコールを、やらしてもらいます。ラジオで、流れた曲なんで、知っている人もいると思います。(客席から「知ってるゥ～」の声、飛ぶ)「14日の土曜日」」(イントロが始まって)

「ハイ、行くぜぇ――っ！ **ワン、ツー、いち、にィ、さん、しィ」**

M12 14日の土曜日

終わってKAZZYがイントロを弾き始めるとSCEANA叫ぶ

「ヘイッ、行くぞ――っ!!」

「ハイッ、行きまぁ――す！…スピロヘ―タ…」

M13 スピロヘータ

間奏でSCEANAとKAZZYがキス。

観客は当然「キャ――ッ!!」

「スピロヘータ」終わるとメンバーは再び退場。

客席では「アンコール！」「しぃなぁ――っ!!」「カジィ～～ッ！」「モグワ～～イッ！」「けんちゃぁ――んっ!!」のコール、続く。

およそ6分後、けんchanが白いビニール傘を手に、ステージ向かって左ソデから中央へ転がりこんでくる。

客席は言わずもがなの「キャ――ッ!!」

けんchanマイクに向かって、

「しっ、しつこい」

KAZZYがギターのチューニングを終えるとSCEANA、上半身裸で

「まだやってない曲が2曲もあるんやけど…ほら元気あるかお前ら、ほらァ――っ!! ほらァ――っ!!」

客席「キャ――ッ!!」

嬌声を身体一杯に受けてSCEANA

「元気あるなお前ら、**オア――っ!! オアーッ!!** っさ、行くぞォ――っ、行くぞォ――っ!! へのへの……もへじ」

M14 へのへのもへじ

終わるや否やSCEANA叫ぶ

「ラストいくぜェ――、ラストいくぜェ――っ!!」

けんchanのけろっぴドラムがせり出しCO_2吹き出す。SCEANAの雄叫び

「**ヘイ、行くぜェ――っ!!**」

M15 KILL YOURSELF

演奏終了寸前にSCEANA

「THANKYOU!! 今日はどうもありがとう KILL! YOURSELF!!」

「ありがとう、……また**会おね**」

客出しのSE("LET IT BE")が流れる中、嬌声にもまれてメンバー退場。

かくして、ケロヨン、けろけろけろっぴー、悪魔系の鎌(!?)など、そのほかまあいろんなものが揺れた、かまいたちのはちゃめちゃライヴは幕を閉じたのであった。

（注）"MC"とは"MASTER OF CEREMONIES（司会者）"の略語から転じて、ライヴ、コンサート等のいわゆる「しゃべり」の部分を指す語のことである。

ONSTAGE BACK NUMBER GRAPHITY

いつもの人ありがとう。初めての人こんにちは。オンステージとエキサイトの在庫は、いまこれだけです。

〈90年6月号〉

あの休暇届は幻だと願わずにおれません。6月号の表紙を飾っているのはZIGGY。パーソナルインタビューもいたしております。

ライヴは、郡山のX、知久・柳原の超迫力写真も嬉しいたま。そしてBUCK-TICKは、敦が官能的な表情で迫ります。また、大人の日、子供の日と完璧取材のストリート・スライダーズにマルコシ、Justy+Nastyもとりそろえました。

特集は、『世紀末を彩る耽美派ロック』。美しく妖しい耽美の世界がたっぷりとお楽しみいただけるはずです。インタビューでは〝ダ××フー〟に肉迫。ユニコーンファンの貴方はお見逃しなく。

〈90年7月号〉

7月号の表紙は、元気印のJ(S)Wがごきげんよう。「レッツゴー4匹」ツアーの初日、日比谷野音のライヴ、そしてパーソナルインタビューといたれりつくせりの構成でお届けします。

サイケなイラスト野郎、ジミー益子はAURAを描きました。子れっずの愛くるしい笑顔も♥ものです。BY-SEXUAL、かまいたち、筋少、KATZEも大迫力。ファンならずとも生ツバものの作りでございます。

また今年1月に急逝したJAGATARAの江戸アケミ追悼コンサートの模様を完全収録。ロックファンを自認する貴方に是非、読んで頂きたい。

〈90年8月号〉

8月号の表紙はX、TOSHIの熱唱シーンでございます。もちろんライヴは「X・ローズ&ブラッドツアー」最終日、大阪城ホールを4ページに渡って掲載。生井秀樹熱写のYOSHIKIは頭くらくらもの。

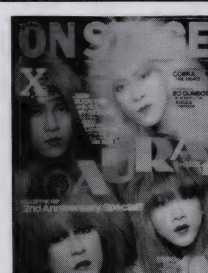
またBUCK-TICK横浜アリーナ2DAYSは迫力写真を満載。そしてBY-SEXUAL、COLOR、グレイトリッチーズなどのライヴもあります。

AURAのライヴ「FANTASTIC AURA SHOW 90'S」の最終日は新潟県民文化会館まで追っかけ取材をいたしました。AURAファンは必見のページです。

〈90年9月号〉

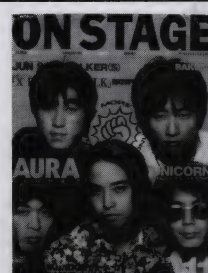
創刊2周年を飾る表紙はもちろんYOSHIKI。とてもおめでたいのでライヴもBUCK-TICK、ZIGGY、JUSTY-NASTY、たま、と総々たる顔ぶれをとりそろえました。

またAURA山中湖の合宿レポート、GO-BANG'S「グレイテスト ビーナスレビュー TOUR」も日本武道館ライヴにインタビューと盛り沢山の内容です。

2周年記念号ということで、特集は今をときめくバンドのプロフィール再チェック&ONSTAGEに寄せられた各界からの愛あるメッセージと涙もんの構成になっております。

〈90年10月号〉

10月号の表紙は100メートル先でもはっきりくっきりのAURAです。東京ベイN・Kホール、追加公演の目黒ライヴステーションでのライヴをお届けするばかりか、LOVE MAGIC PARTY'90の密着取材も。AURAファンの貴方、泣くこと、うけあい。

その他のライヴは、J(S)W、BUCK-TICK、レピッシュ、かまいたち、BY-SEXUAL、パール兄弟など、強力バンドをとりそろえています。

特集は、Xビデオ『CELEBRATION』密着取材。Xの意外な素顔をご覧いただける、見逃せない企画になっております。

〈90年11月号〉

秋らしく爽やかな11月号の表紙は、ユニコーン。ニュー・アルバムのインタビューもどーんと4ページ。

そしてライヴも大物ぞろいです。ZIGGY、BY-SEXUAL、かまいたち、AURA、たま、RCサクセション、ザ・ストリート・スライダーズなど、新鮮な写真満載で貴方もにっこり。J(S)Wは「レッツゴー4匹」ツアー最終日、新潟県民会館のライヴ+インタビューでこれまたにっこり。

また、増刊号「X PHOTO&TALK」売切御礼というわけで、スペシャルダイジェストで中身をお見せする特集もひかえております。

〈EX-CITE第2号〉

第2号の表紙を飾るのはZIGGY。そして今回取り上げているアーティストは、BUCK-TICK、X、ZIGGY、AURA。

BUCK-TICKは大宮ソニックシティでのライヴからよりすぐった写真を満載。そしてX、ZIGGY、AURAはそれぞれパーソナルインタビュー付き。愛しの君の素顔を深く知りたいあなたに、是非読んでいただきたい企画です。

その他、たま、かまいたち、FUSE、デランジェなどのインタビューもあります。また、占い、コミックなどのコーナーもいっそう充実。花まるもんの第2号です。

〈EX-CITE第3号〉

第3号の表紙は、たま。世代を越えた人気の秘密を探ります。スタジオ特写にライヴ、そしてアンケートと、堂々20ページの、知られざるたまの世界へようこそー。

今回も登場のXは、郡山でのライヴに加えてビデオ「WEEK END」の撮影シーン&MCスペシャル。これならXファンの貴方もきっと満足、おつりがチャリン。

そしてマルコシアス・バンプはスタジオ撮り+インタビュー。ONSTAGEのベストライヴPHOTOを集めた『ONSTAGE SMASH HITS』にも背じがぞくぞくです。

〈EX-CITE第4号〉

第4号の表紙は今をときめくAURA。今回自作をもってお届けするスタジオ特写とインタビューとMCスペシャルでAURAの魅力を堪能できること間違いなし。

巻頭から飛び出すのはJ(S)W。スタジオ特写と宮城県民会館のライヴそしてアンケートと盛りだくさんでお送りします。

毎回登場でもはやレギュラーか？ との噂もとびかうX。武道館ライヴと終了直後の記者会見を詳しく掲載。正確かつ「泣ける」と大好評でした。またビデオ『CELEBRATION』の撮影の模様もお届けします。Yoshiki'sドラミング完コピ講座とあわせてお楽しみ下さい。

入手方法

※ONSTAGE、EX-CITEのバックナンバーは次の方法で手に入ります

①少年出版社に現金書留で直接注文する

自分の欲しい号を必ず紙に書いて同封して下さい。送料はONSTAGEは1冊―110円、2冊―150円、3冊―400円、4冊目からは50円増し。EX-CITEが1冊―300円、2冊目から50円増しです。定価はONSTAGEは60円、EX-CITEは980円ですので、《定価＋送料》をご確認のうえお申し込み下さい。2週間ほどで届きます。ONSTAGEとEX-CITEを同時に申し込まれる場合は、少年出版社に送料をお確かめ下さい。

②バックナンバー常備店に行って買う

常備店は全国に10店あります。

東京	神田神保町「書泉ブックマート」	☎03-294-0011
東京	神田神保町「書泉グランデ」	☎03-295-0011
東京	神田神保町「三省堂書店神田本店」	☎03-233-3315
東京	水道橋「山下書店後楽園店」	☎03-813-6897
東京	新宿「三省堂書店サウスブックポート店」	☎03-349-5635
東京	原宿「ブックストア談2F」	☎03-470-6103
東京	蒲田「蒲田栄松堂（東急プラザ6F）」	☎03-731-2241
千葉県	柏市「カルチェ5新星堂柏店」	☎0471-64-8551
神奈川県	横浜「シアル栄松堂」	☎045-311-6146
大阪	「紀伊国屋エスト店」	☎06-374-3748

③近所の書店に注文する

「少年出版社のオンステージ90年 月号（オンステージ増刊のエキサイト 号）を取り寄せて下さい」と言って下さい。2～3週間で届きます。なお書店によって情報に差がありますのでご注意下さい。

バックナンバーに関するお問い合わせ、お申し込みは、

少年出版社
〒169 東京都新宿区高田馬場4-28-12
☎03-360-1482（平日はAM9:00～PM5:30まで、土曜日はAM9:30～PM4:00まで「そね」「さくらい」が受け付けております）

※少年出版社が在庫切れでも常備店には残っている場合があります。

近くの人も遠くの人も機会があったら行ってみよお。

EX-CITE SIMULATION TEST

学園祭でステキな恋を見つける方法

by ミカエル・サトゥルヌス

もうすぐ、学園祭のシーズン。学園祭といえば、楽しいことはもちろんだけど、恋のチャンスもゴーロゴロ。では、どうすれば学園祭でステキな恋を勝ちとることができるのでしょうか？　答はこのテストの中にある。出会いを望む者は、すべからくこのテストを行ってから学園祭に臨むとよかろう。

〈テストのやり方〉

このテストでは、あなたが主人公。文中の〝私〟が自分だと思って、質問には〝私ならこうする〟と思うほうを選び、指示に従って物語を進めて行って下さい。

Q 主人公の〝私〟は、友だちのヒロミと、11月のある日、男子校の学園祭に出かけました。そこに待ちうけるのは、果たしてどんな男の子？──→1へ

1

何せ男子校の学園祭なもんで、これは期待するな、というほうがムリなお話。で、ファッションも当然のことながら気合いが入るわけで。さて、どんな感じにまとめる？

a．渋カジとか、カジュアルな感じ。──→②へ

b．ワンピースとか、紀子さまっぽい清楚な感じ。──→③へ

2

お、野外ステージのほうからは、バンドの音が聴こえてくる。〝いかすバンド中毒〟とかいうのをやってるらしい。第1部は、Xやユニコーンとかのコピーバンド、第2部はオリジナル曲をやるバンドが出るんだって。どっちを見たい？

a．コピーバンド。──→③へ

b．オリジナルのバンド。──→④へ

3

何も食べずに来たもんだから、私たち2人は、さっそくお腹がすいてしまった。近くには、クレープ屋さんとヤキソバ屋さんが。どちらの店も、店員やってる男の子はいい勝負だし、甲乙つけがたい。どっちを食べようか？

a．クレープ──→④へ

b．ヤキソバ──→⑤へ

4

講堂でバンドの演奏を見ていると、友だちのヒロミが、知り合いの男の子を発見。仲良さそうに話しこんでる。しかも、ワリとカッコイイ子。ヒロミに、あんな知り合いがいたなんて知らなかったぞ！　どうしようか？

a．私もお知り合いになりたいので、会話に加わる。──→⑧へ

b．ヒロミが私のことを彼に紹介してくれるのを待つ。──→⑥へ

5

とりあえずお腹がふくれて、ひと息ついた。構内をブラブラ歩いていると、手相占いをやっている男の子たちに声をかけられた。インチキくさいけど、とりあえず占ってもらうことにしたら、突然、「ねー、キミ、歯に青ノリついてるぜぇ」と、ケラケラ笑われてしまった。う、ヤキソバの青ノリが！　不覚だわ。どうする？

a．とりあえずその場から逃れる。──→⑦へ

b．開き直り、「だってヤキソバ食べたんだもん」とか言う。──→⑨へ

6

人だかりがしてるところを見ると、そこは美人コンテスト会場。〝飛び入り大歓迎〟とかで近くにいた実行委員の男の子が、「キミたちも出てよ！」と私らに言うのだった。ヒロミは、「出てみよっか？」なんて言ってるけど…。

a．よーし、出てやろーじゃないの。──→⑧へ

b．セッタイに出ない！──→⑪へ

7

あー、恥ずかしかった。トイレで歯のチェックしたいよー、と思ったのだけど、トイレの場所がわかんない。おまけに男子校だし、どうしたらいいのでしょう私たちは。

a．近くにいる男の子に聞く。──→⑨へ

b．男の子に聞くのは恥ずかしいので、とにかく自力でさがす。──→⑪へ

8

何か面白い所ないかなぁ、と校内を巡っていると、実に本格的なディスコがあった。ターンテーブルやミラーボールまで持ち込んで、流れているのはバリバリのハウス・サウンド。やるなー。さて、ボディコン高校生あふれるこの店内で、あなたは？

a．トーゼン、踊ります。──→⑩へ

b．面白いので、踊ってる人々を見てる。──→⑪

9

「ね、キミたちも参加しない？　女の子足りなくて困ってんだ」と声をかけられたのは、〝ねるとんルーム〟。男の子のツブは、まあまあ、というところかな。どうしようか？

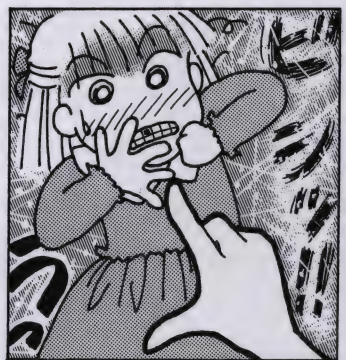
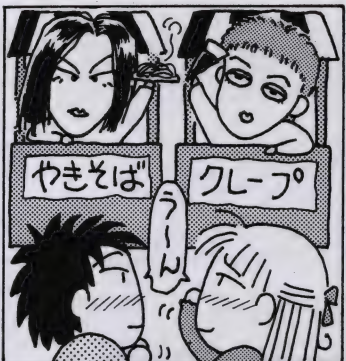
a．これに参加しなきゃ学園祭に来た意味がない！　OKする。──→⑫へ

b．でも、もし誰も私に告白してこなかったらミジメ。やめとこう。──→⑪へ

10

踊りまくってる私たちに、男の子2人組が、声をかけてきた。でも、2人とも〝カンベンしてよー〟と言いたくなるほどサイアクなの。バカっぽいし、ルックスもサイテー。どう断ろうかねぇ。

a．鏡見て出直してきな、と冷たく言い放つ。──→⑯へ

b．友だちと待ち合わせてるから、とか、テキトーなことを言って逃げる。──→⑬へ

11

「あの一、新聞部なんですけど、アンケートお願いしまーす」と言われ、その元気さについアンケートに答えてしまった私たち。始めはフツーの質問だったんだけど、「今日の下着の色は？」とかエッチな質問も！　どう対処しますかね？

a．怒って無視してやる。──→⑰へ

b．ま、遊びなんだし、ある程度なら答えてあげる。──→⑭へ

12

勇んでねるとんに参加したはいいけど、私とツーショットになったのは、あんまり好みではないタイプ。だって強引なんだもん。実は私は、目をつけている人がいるんだけど。どうしようかなぁ…。

a．その、ステキな人の方に移動する。──→⑮へ

b．すぐ移動するのも悪いし、しばらく様子を見ていよう。──→⑱へ

13

ディスコから出ると…廊下の所でうずくまってる男の子が。なんか、お腹が痛いみたい。私が声をかけようとすると、ヒロミは、「ああしてナンパしようとしてんのかもよ」。どうしようかしら？

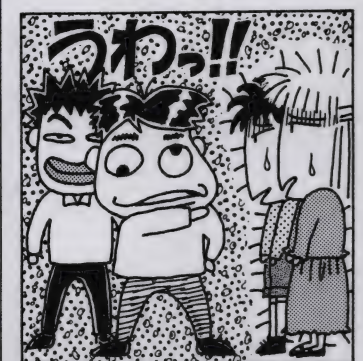
a．別に他に人はいっぱいいるんだし、私らが声かける必要もないか。──→⑯へ

b．でも、一応心配だから、「大丈夫？」とか声をかけてみる。──→結末Aへ

14

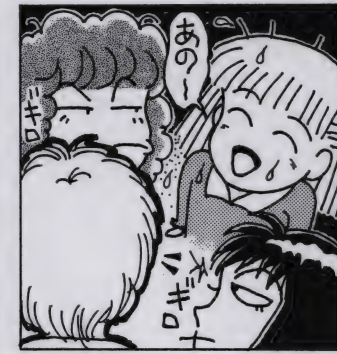
しかし、いろんなタイプの人間がいるもんだ。さっきから女の子の写真ばかりパチパチ撮ってた男の子が、私たちの近くにも寄ってきて、「1枚撮らせて」と言ってきた。写真部らしいんだが、どうします？

a．快くOKする。ポーズまで取ってあげる。──→結末Cへ

b．なんか、よくわかんないから断る。──→⑰へ

15

しかし、その男の子はさすがに人気ナンバーワンで、私が話の輪に入ろうとすると、他の女の子の鋭い視線がギラリ。こわいよー。こんな場合、どうする？

a．気にせず、彼に積極的に話しかける。──→結末Eへ

b．女のウラミは恐いので、スゴスゴとその場を去る。──→⑱へ

16

トイレに行って戻ってみると、ヒロミがいない。どうやらはぐれてしまったらしい。と、そこへ「どしたの、ひとり？」と声をかけてくる人が。おお、モロに私の好みのタイプの人だ。「よかったら、案内するよ」と言われたのだけど、ヒロミは…。どうしますかね？

a．こんなチャンスは二度とない。ヒロミには悪いが、ここは彼とツーショットに…。──→結末Bへ

b．「友だちと一緒だったんだけど、ハグレちゃって」と、本当のことを言う。──→結末Aへ

17

ヒロミがどーしてもって言うから、〝ねるとん〟のコーナーに参加した。でも、あんまりカッコイイ男の子はいなくて…。で、告白タイム。私の所にも1人男の子が来て、タイプじゃないから断ろうと思ったんだけど、「友だちでいいから…」と泣きそーな顔をして言うの。どうしよう…？

a．ま、友だちならいいか。かわいそうだし、OKしてあげよう。──→結末Cへ

b．キッパリと「ごめんなさい」。──→結末Dへ

18

結局、お目当ての彼とは話すタイミングを失ってしまって、私は何も面白くない。ヒロミもそうみたいで、つまんなそう。シラケるなあ。残り時間、どうしていようか？

a．ヒロミと話でもしてよーっと。──→結末Eへ

b．ヒロミと話しても余計つまんないので、とりあえずその辺の男の子と話そう。──→結末Dへ

結末A

なんと、それが縁で、私とその男の子は、交際を始めることになったのでした。私にとっては大収穫の学園祭であった、というわけです。ナニ？　そんなにコトがうまく運ぶはずないって？　だってしょーがないでしょ、作り話の心理テストだもん。

〈診断〉

あなたは、積極的な女の子。男の子に対しても、臆することなく話せるし、ハツラツとした魅力にあふれています。そんなあなたが学園祭で輝くのは、バンドをやったり、模擬店の呼び込みをやったり、の元気いっぱいの姿。イキイキしたあなたに注目する男の子が続出するはずです。

結末B

ヒロミには悪いことしたけど、うまいことやっちゃった。その日は、その彼と後夜祭までずっと一緒だったのでした。本格的につき合うかどーかはわかんないけど、ルックスはバッチリだから、今度電話して、デートしてみようかな。

〈診断〉

あなたは、ちょっと小ズルイところはあるけど、男の子との接し方を心得ている人。しかも、会話やファッションのセンスが抜群のようですね。学園祭では、とにかく服装で目立ってしまうのが、あなたにとってはベストのよう。見た目で魅きつけられれば、あとはあなたの会話センスなら、心配なしです。

結末C

甘い顔を見せたのが悪かったのかしら。大して好みでもないのに、その男の子、ずっと私につきまとっちゃって。そりゃ、好意を持たれるのは悪い気分じゃないけど、なんかちがうんだよなー。

〈診断〉

心優しい女の子ですね。ま、ここではそれがやや裏目に出ちゃったわけだけど。あなたが学園祭で輝くなら、そんな優しさ、女の子らしい細やかな心づかいをアピールするのが一番。喫茶店のウエートレスとかをやれば、人気ナンバーワンになれるかも。また、お目当ての男の子をずっとマークして、何かと手伝ってあげたりするのも効果的ですね。

結末D

あー、つまんねー。だからねるとんなんて下らないっていうのよ、ホントに。男子校なんて、がっついた男ばかりなんだから。今度は共学校の学園祭に行くことにしようっと。一日損した気分だわ。

〈診断〉

あなたはマジメすぎるんですね。実に頭が固い。いいかげんなことが嫌いでさ。そういう人は、学園祭でもミーハーなことはせず、実行委員にでもなったほうがいい。で、一緒に実行委員やってる男の子(マジメなね)と、協同作業を通じて恋に落ちる…というパターンがおすすめなのですが。くれぐれもバカ騒ぎとかしないように。収穫ないはずだから。

結末E

なんか、このねるとん、ヤなムードになってしまった。全体にシラケたムードで、告白タイムも、私のところには誰もこなかったしさ。ホント、バカにしてるわ、こんなことなら学園祭なんか来なきゃ良かった。

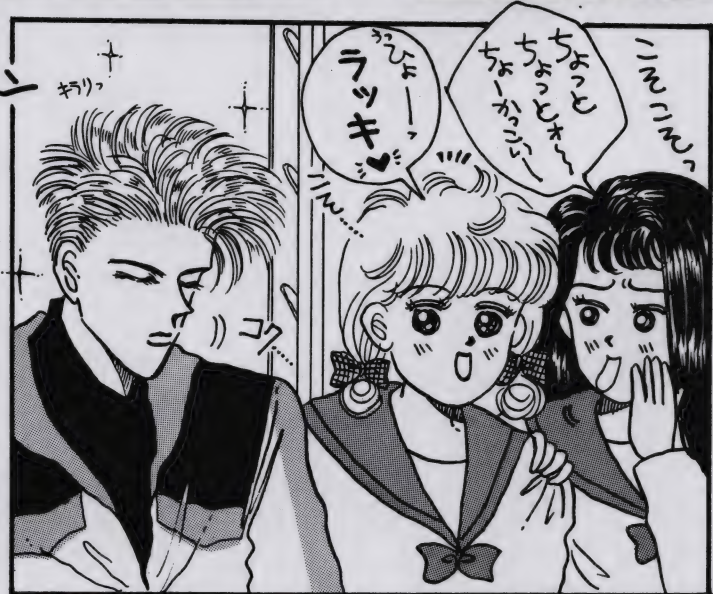
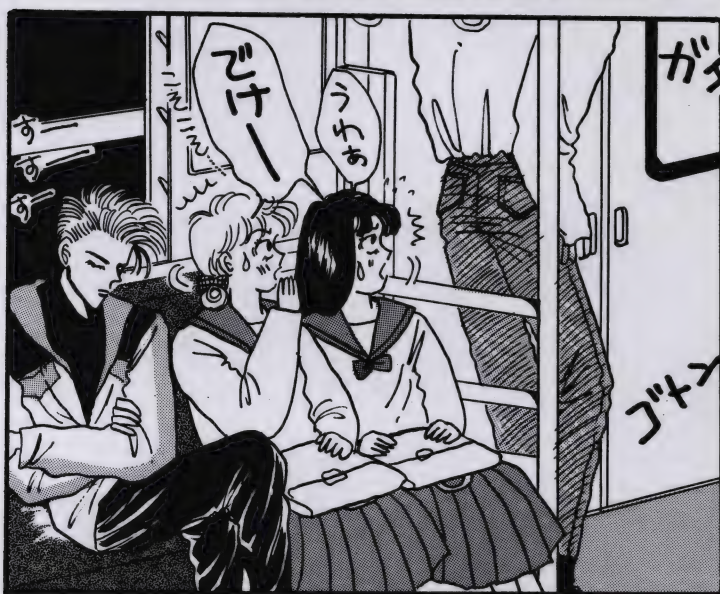
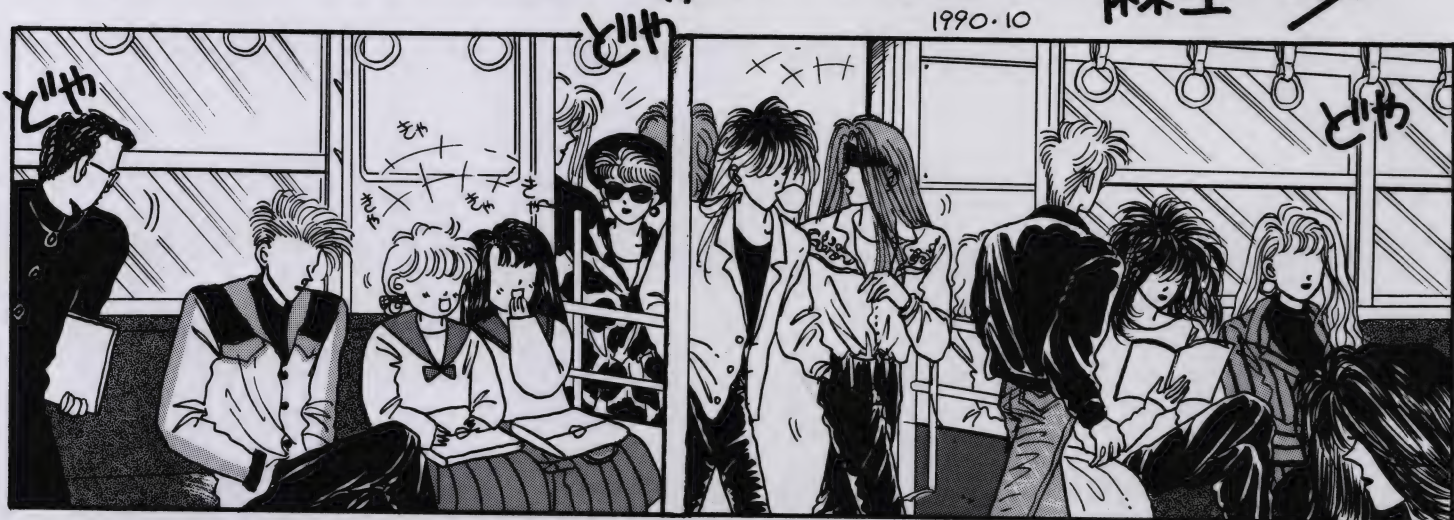
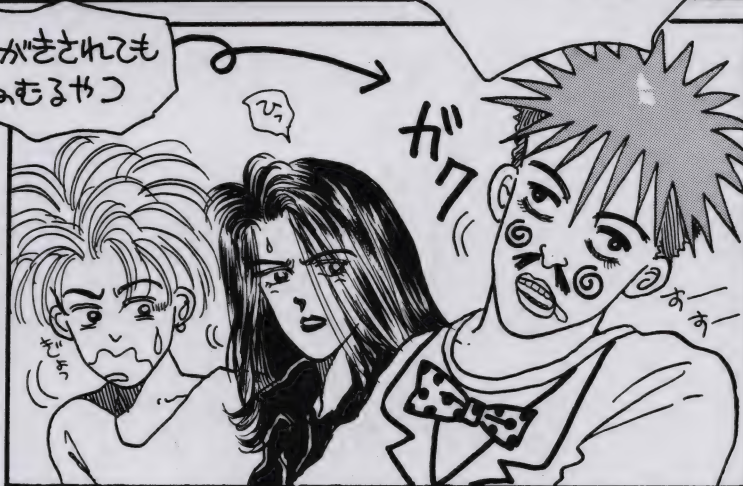
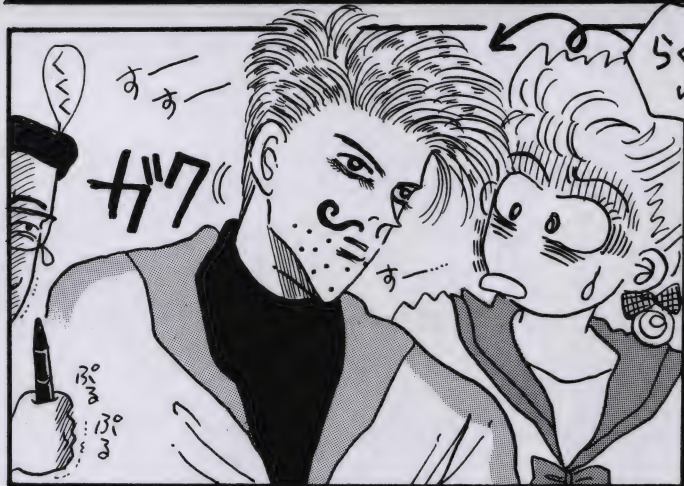
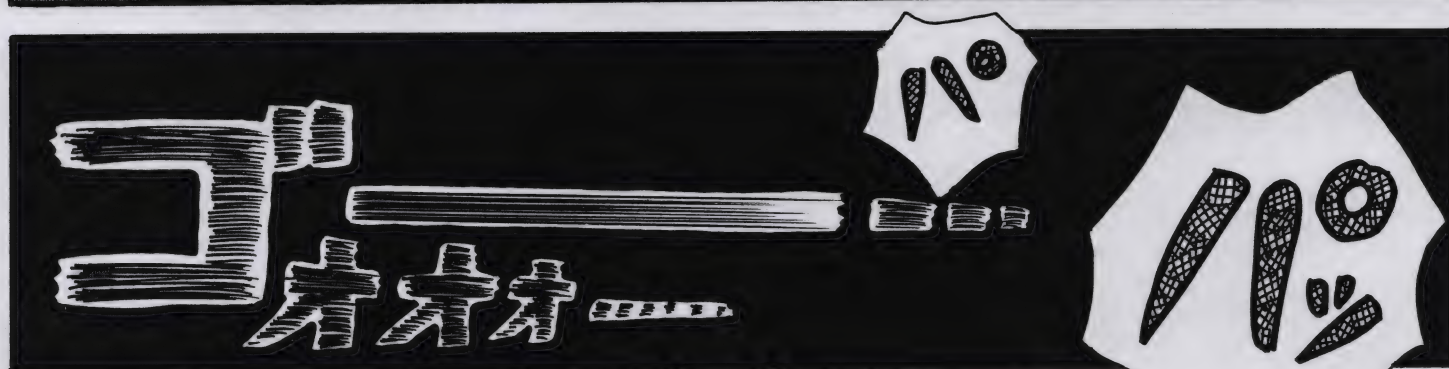
〈診断〉

ご愁傷さまです。ヤな結末になりましたね。でも、自業自得です。だってあなた、性格悪いんだもん。状況把握もできてないし、それでは〝ガサツ〟と思われるだけです。そんなあなたが学園祭で光る方法はただ一つ。すっごく美人の友だちと一緒に行動して、オコボレをあずかるのです。これしかない。さぁ、今から友だちを見つくろっておくべし！

SCRAWL

麻生 歩

1990.10

ゴトン
ガー
ガー
ガタン
すー……
こら－－－いっ
席とっかえよ！
きゃ－－－っ
ガク
ガク
ガタン
パ
パッ
ゴーーーーオオオ…
らくがきされてもねむるやつ
ガク
すーすー
くくく
すー……
ガク
ひっ
すーすー
ごおおーーーっっ
くるり
ガク
すーすー
ゴキッ
んなわきゃねーよっ！
ぷぷぷぷ…
くく……
ガク……
ガク
ガク……

巻頭はアーティスト・インタビュー

UNICORN、かまち、スカパラも連載するぜ!
Xファン必読「デイリー オン X」もあり!

HiP THE NEWS——

気になるヤツらを完ペキPICK UP!

HiPになりたきゃ逃すな「IDEA」

「HELLO! THE HiP」の拡大強力版だ!
今度は実践講座もあるぜ!

HiPな人々の連載だ「HELLO!」

マンガは桜沢エリカ、岡崎京子、内田春菊
小説は「X5か月計画」でおなじみ井出千昌
クラック・ザ・マリアン、SPARKS GO GOなどなど

エッセイ、コラムの大洪水だぁ——

そして全国3000万ヴォーカリスト初心者に贈る
雑誌内雑誌 **VOCAL MAGAZINE**だ
投稿だって3段階だぞ「COM'ON THANK YOU」

ハガキ、イラスト、写真、手紙は まだまだ死ぬほど待ってるぜ!

(内容は一部変わる事もあります)

EX-CITEの次は

『HiP MAGAZINE』だ!

オモシロ無敵!の

MONTHLY ON STAGEが作る

超面白タメになるロック雑誌

それがHiPだ!

詳しくは右を見ろ

AB判420円で11月17日創刊!

UNICORN

写真／生井秀樹

インタビュー／かこいゆみこ

奥田民生

阿部義晴

堀内一史

手島いさむ

西川幸一

「リンジューマーチ」
(作詞/奥田民生　作曲/奥田民生)

死ぬ歌は前も歌ったことがあるんですけど、まぁ、死ぬのが楽しいと思ってる人もいるかなと思って(笑)。

これも音作りでは、デッドな音でドラムを録って。マーチっていうぐらいで元気いいんだけど安っぽい感じで、シンセの音とかね。アレンジ自体は安っぽくないんですけどね、音はけっこうペロペロッとしてるんですよ。ま、死んだ人だからあんまり機材を持ってないって感じにしたんです(笑)。　[奥田]

「スライム・ブリーズ」
(作詞/堀内一史　作曲/堀内一史)

これはけっこう面白い、実験的な曲ですよね。リフの感じからして僕の曲らしいんじゃないでしょうか。最初はもっと生っぽかったんですけど。これって1枚目の「フォーリン・ナイト」って曲があるんですけど、そのマスターを持ってきて、それを土台にして作ったからけっこうリズミックっていうか、打ち込みモノの感じになってるんですよね。これはけっこう遊びましたよ。1日1回は何か音入れようって感じで、いろいろ重ねていって、いろんなCDから音を録ってサンプリングしてます。

鬼のようにやりましたね、この曲に関しては。この主人公はですね、ま、スライムなんですけど、ちゃんといるんですよ(笑)。名前があるんです。アヴェ・ヨ・シファールっていうね(笑)。この哲学者が主人公です。コーラスでちゃんと言ってるんですよ。

♪アヴェ・ヨ・シファール♪って(笑)。この物語はですね、ドロドロのスライムが愛に飢えた女の人のベッドに入り込んでモノにしてしまうという話です。

企画モノですね、これは。今まで作ったどの曲ともタイプが違う。いろいろチャレンジしてますね。この曲のヒントになったのはジャネット・ジャクソンです(笑)。これ冗談ですよ。　[堀内]

「夜明け前」
(作詞/阿部義晴　作曲/阿部義晴)

これは最初アカペラで始まって途中でピアノが入る。シンプルでしょう。弾き語りにしたいっていうのがあったんですよ。

弾き語りで、ピアノにするかローズ(エレピ)にするか。ピアノだと普通になっちゃうんで、それに僕ローズが好きだったんですよ、その頃。すごく気に入っててね。で、ローズにしてタッチ・ノイズも入れようって。

そういうとこから始まって、最初は全部ピアノを入れてやってたんですよ。でも、何か小じんまりまとまりすぎちゃって、面白くなかったんです。しょうがないんで、ピアノを削ってエコーとかも全部無しにしたし。

で、耳元で歌ってるような感じに変化していったんですよ。

けっこうヴォーカルだけ聴くとスゴイでしょ。楽器が入ってなくて不思議な感じがする。生々しいでしょう(笑)。それで女が……とか、いやいや、そうじゃなくてですね。ホラ、スザンヌ・ヴェガとかもやってるでしょ。あとKyon²のCDのヴォーカルだけのやつとヴォーカル抜きのやつとかあったのね。それは凄いと思ったし。別にパクったわけじゃなくて、作ってる時は全然頭になかったですけどね。やっぱりヴォーカルだけ残るって凄いなと認識しましたね。　[阿部]

「CSA」
(作詞/阿部義晴　作曲/阿部義晴)

僕の曲って変わってるのが多いですね。その中でもこれは一番変わってる。52秒、短いんですよ。パンクっていうか何と言うか、僕は「ダ・フー」と呼んでるんですけど、モロあの線ですね。あれがなかったら出てこなかった曲です。最初の「ワンツースリーフォー」に行く前の部分はライヴの最中にできたんです。ダ・フーの本番中にね。

あれって全部即興でやってるでしょ。その場でできたのを、家に帰って覚えてたんですよ。それをそのまま使ったという。

詞はCSアーティストの住所と電話番号をそのまま使ってます(笑)。僕ね、本とかスポーツ新聞のエッチなとこあるでしょ、あれを歌うのが得意だったんですよ(笑)。いいかげんにメロディーつけてね。そういうとこから来てるんです。たまたま何かあった方が盛り上がるだろうっていうんで、名刺があったから「じゃ、これを歌おうか」って。ちょうどハマったんですよ。1曲リハーサルで通す間に全部決まった。で、これNHKに行ったらダメだって言われてねぇ、社名だから。しょうがないからNHKにしましたよ(笑)。で、住所もNHKのに変えて、それでもハマった。何でもハマるんです、ご家庭でも遊べますよ(笑)。　[阿部]

「働く男」
(作詞/奥田民生　作曲/奥田民生)

これはもうシングルになってる曲で、TVのために書いた曲です。最初からアルバムとは別に作ってますからね。「夢で会えたら」っていう番組のタイトルがあったんで、その感じを生かして書いたんです。「大迷惑」と通じるものがありますね。

このドラムは西川クンじゃなくて、全部キカイくんがやってるんで、ちょっとヘンですよね。

で、ローズ・ピアノを入れたことによって、昔の全然人気のないバンドの音になっちゃってます(笑)。　[奥田]

「いかんともしがたい男」
(作詞/奥田民生　作曲/奥田民生)

けっこう好きなんですよ、コレ。感動するでしょ、何でも詞になってしまうんですね。電話で言い訳をしてるだけっていう内容ですから(笑)。別に経験から来てるってわけじゃないですよ。

いかんともしがたい、情ない男でしょ。こういう曲ができるとね、詞は悩むんですよ。フツーの詞になっちゃうのはイヤだなぁと思って。

コレはドラムも僕が叩いてます。途中からだけど。これはねー、何かボヤーッとしたヤツを作りたかった。音がいっぱい入ってて、無駄なのがいいなぁと思って。音の遊びっぽいことをやるのは好きです。これはギターが10本ぐらいとか、そういう無闇なやつなんです。聴いてもわかんないと思うけど。アコギ10本とかね、4人で何回もやったりして。で、まぁ、これはオーケストラが入ってるんだけど、生の美しさを壊すべく、エフェクターをかけてしまったという。

音に関しては今回けっこう実験してますね。わからないところもあるけど、けっこう地味なんで。

この曲と詞のハマリ具合は完璧だと思います。新しい世界ですね、特許取ろうかな、みたいな(笑)。　[奥田]

「スターな男」
(作詞/阿部義晴　作曲/奥田民生)

「働く男」がサラリーマンの歌で、これはロックン・ローラーを歌ったものだけど、ロックン・ローラーもサラリーマンと同じようなもんだってことですよね。

これはごくフツーにシンプルに作った曲ですね。ちょっと転調のところがややこしいですけど。これはでもね、簡単そうに見えますけど、いざコピーしようと思ったら難しいですよ。一回転調して上に上がったのが下がったりしてますから。でもバンドで演奏するとやっぱり盛り上がる曲ですね。　[奥田]

ノの嵐』解説

「命果てるまで」

(作詞/奥田民生　作曲/奥田民生)

ハワイアンみたいなウクレレが入ってるんですけど、これは加山雄三をテーマに(笑)。

最初はストレイ・キャッツみたいな感じだったんですけど、加山雄三にしよう、ということで決めたんです。このレコーディングはけっこうラクでした。

手島クンのスライド・ギターがちょっと時間かかりましたけど。彼はやったことがなかったんで。あとは別に、ウクレレも簡単でしたよ(笑)　[奥田]

「エレジー」

(作詞/奥田民生　作曲/奥田民生)

今回僕が作った曲は割とシンプルな、複雑でない曲が多かったですね。でも全体的に音にはこだわりました。この曲の音もけっこう好きです。ドラムとかペタペタした感じにしたかったから、毛布をいっぱいドラムの回りにつけてですね、響かないようにしたんです。

途中から曲調が変わるんですが、そこはもうドラムは別録りで全然違うセッティングにしたんですけどね、他の楽器も全部。

カワイイ感じの曲かなと。女性のコーラスは渡辺満里奈ちゃんがやってくれてます。

あと、クイーカーを使ってますね。「できるかな」のゴンタ君の声のやつ(笑)。"オオ、オオ"って音のする楽器があるんですよ。そういうのを入れたり、色々やってますね。　[奥田]

「フーガ」

(作詞/堀内一史　作曲/堀内一史)

これはヴォーカルを僕が取ってるんですが、Bメロはアベが歌ってるんです。女をアベにして男は俺、いわゆるフーガの追っかけっこみたいな感じで。アベの「ねぇ、優しくして」って声が気持ち悪いでしょ(笑)。ただのオカマになってしまったという…。

バンジョー、ティンパニとか鳴り物がけっこう入ってますね、あと鐘の音とかジェット機の音、そういうSEっぽい音も入ってるし。曲のメロディの感じがヨーロッパの民謡みたいでしょ。これ最初はソ連のコサック・ダンスみたいなイメージで書いたんですよ。だから歌詞を文学的に書いたら面白いんじゃないかと思って、「枯葉舞い散る9月の宵」から始まって「1人佇む石畳」って男が雰囲気に浸ってるんですよ。1人になりたいんだ、みたいなムードに自分を置いてるという詞ですね。でも女の人が寄ってきてそれをぶち壊されてしまうと(笑)。

今回のアルバムって全体に実験と遊びがいっぱいですよ。遊びながら実験しているという感じ。「ロック幸せ」とか「CSA」とか、でまたマジメな「富士」とか「いかんともしがたい男」って風に並びがいいんですよ。曲がお互いを良くしているって感じがしますね。　[堀内]

「自転車泥棒」

(作詞/手島いさむ　作曲/手島いさむ)

これは曲作る時、ポール・マッカートニーのイメージがあったんですよ。ウィングスじゃない、ソロでやったらどうなるかみたいな。だからけっこうカッチリしたポップスですね。王者のポップス。歌はそういう感じですね。詞は後から書いてるんですが、シャンプーのコマーシャルみたいになっちゃいましたね(笑)。ロマンチックですか？　僕だいたい芸風がそうなんですよ。

みんな自分自身の世界っていうのがあるんじゃないでしょうかね。僕はどっちかっていうとのどかな感じっていうかね、のどかでホワーッとしてて、何かちょっと悲しいっていう、そういう詞を書くみたいですね。

自分では出来るまでどんなのが出てくるかわからないんですけどね。あの「自転車泥棒」っていう映画のイメージは全然頭になかった。ただ、アイテムとして自転車を使いたかったんです。これは子供の時のイメージですね。けっこうオカシイのは読んでみると日本語になってないんですよ。「膝をすりむいて泣いた、振りをして逃げた」とかね、文法的にはおかしいんだけど、とりあえず聴くと素直に聴けてしまうという。音楽の場合、その辺も面白いところなんじゃないかな。　[手島]

「ロック幸せ」

(作詞/川西幸一　作曲/川西幸一)

単純明快なR&Rのパターンを総て取り入れたっていう曲ですね。ちゃんと歌詞の途中に英語が出てくる(笑)。何かほとんどバカにしてますよね。でもR&Rってこういう単純なものでいいんじゃないかっていう。

俺、ギター弾けないんですけど、レコーディングやる前に手島にギターを教えてもらってね。

Aのスリーコードってやつを教えてもらって、ジュン太にちょっとアレンジとか教わって。

家近いんですよ(笑)。で、適当に作って選曲会の時に仮詞があった方が説得力があるからっていうんで仮詞をつけたら、それがそのままイキになって、だからコレ作った時の状態そのままですよ。この曲は「働く」3部作の1つとして、ノホホンと聴いてもらえればいいんじゃないですか(笑)。

すごく短いでしょ、1分57秒って。デモテープの時もこの長さだったんですよ。でもライヴでは少し長くなるかもしれない。

ドラムに関しては、今回往年のロックみたいな曲はやっぱりそういう音作りにしたくてね。キックとかミュートしまくってタムも裏を抜いて昔っぽい音をわざわざ作って、最後のTDでもリミッターの嵐みたいなすごい状況になってましたよ(笑)　[川西]

「富士」

(作詞/阿部義晴　作曲/阿部義晴)

なぜ「富士」かと訊かれても困るんですけどね。ハッキリ言って詞はどうでもいいんです。

ま、曲重視ということで、とりあえずこれは3拍子で、ハチロクなんですけど、それを作ろうというのが最初でした。割とイケイケじゃないやつ。どうしても僕ピアノで作るでしょ、それも夜作るから「ジャジャジャーン」とはならないんですよ(笑)。

どうしてもしっとりした曲になって、そのまま行っちゃうという。これ最初にできた時はベッドの中だったんです。寝る前にね、僕淋しかったんですよ、1人暮らしですから(笑)。女のコもいないし、1人でクライなーと思いながら作ったら、何かダラダラしたのができたという(笑)。

で、ピアニカでプププーって弾いて覚えといて、それだけだと童謡みたいだったから、コードをちょっとシブイとこ持っていって。ヴォーカルはタミオで、コーラスを僕がやってます。最後のコーラス恥ずかしいんですけどね。あそこは最初何もなかったんですけど、試しに入れてみようかってことで。この曲はあまり壮大にはしたくなかったんですよ。

壮大にするのは簡単だけど、それをしないでいかにやるかっていうのに苦心しましたね。リズム・パターンとか。　[阿部]

「ケダモノの嵐」

(作詞/川西幸一　作曲/奥田民生)

この詞は苦労しましたね。メロディが完全に洋楽ですからね、英語なら乗せやすいんだろうけど、日本語だとすっごく難しくてね。ものすごく悩んだんですよ。先に曲ができて、オケもできて、どうしようかってことで詞書いてって言われて。「マジか？一番嫌なのが来た」と思って(笑)タミオも手離したんですよ。一番難しいっていうのがあいつもわかってたから。でも良く乗ったなぁ。「鳩尾」(みぞおち)って読めないでしょ(笑)、誰も読めないですよね。シチュエーションとしては、どこかの喫茶店で恋人同志が会ってて、いきなり「もう終わりにしない？」って言われた瞬間なんですよ。ガーン！っていうその瞬間に、いろんなことを考えたという。負け惜しみを言ってるんですね。

これがアルバム・タイトルになったのは特別意味はなくて、最初は「愛の嵐」にしようって言ってたんですよ。「愛のケダモノ」って案もあったんだけど、ある日スタジオに行くと皆が勝手にそれをくっつけてね、「ケダモノの嵐」になったという(笑)。意味が通んなくなってるんだけど、それはそれで恋人達の一瞬の嵐みたいな感じが出てるから、良いんじゃないかと思ってるんですけどね。　[川西]

『ケダモ
全曲

UNICOR

EX-CITING PRESENTS!

パスケースに、写真立てに、額縁に。
永遠に輝き続けるプレゼントを、いま、貴方だけに贈る

1 かまいたち
（メンバー全員のサイン入り。表紙の別ヴァージョン）

2 かまいたち
（SCEANAのサイン入りポラ）

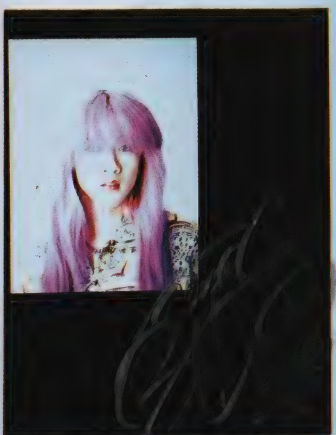
3 かまいたち
（やったるぜェ〜〃KAZZY〃さすけのサイン入りポラ）

4 かまいたち
（クレ²MOGWAIのサイン入りポラ）

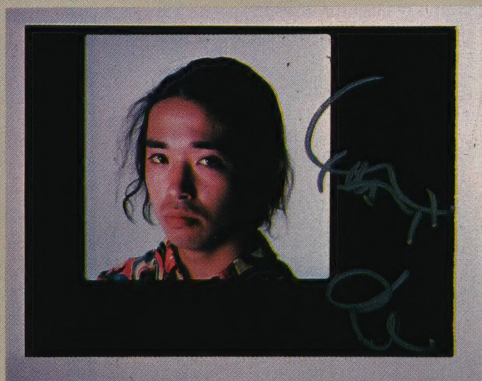
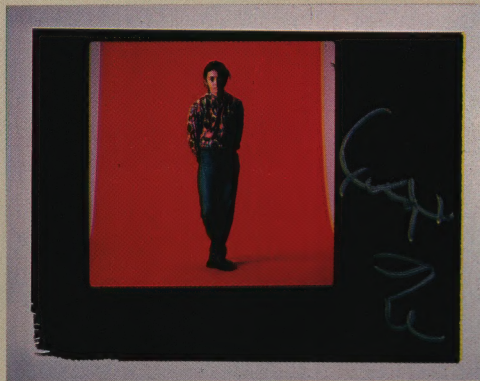
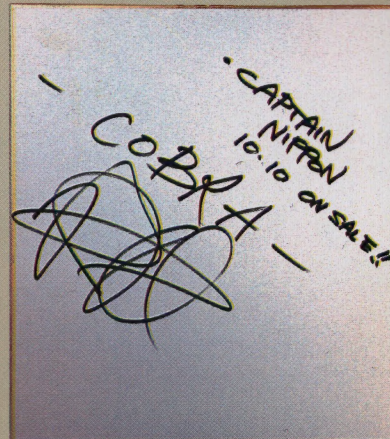
5 かまいたち
（CRAZY DANGER NANCY けんchanのサイン入りポラ）

6 AURA
（れっずのサイン入りポラ）

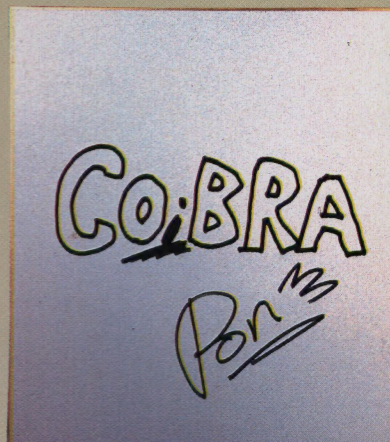
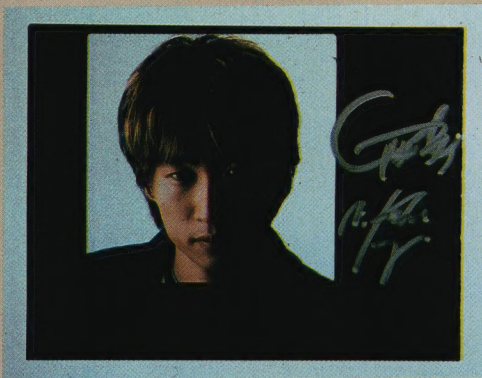
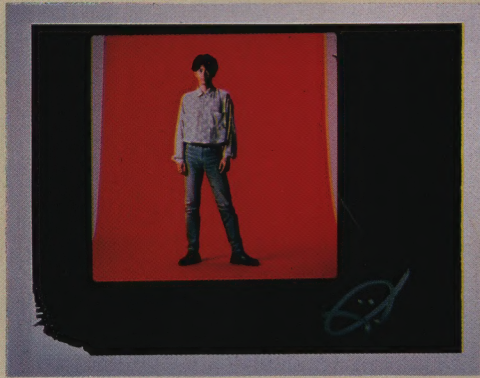
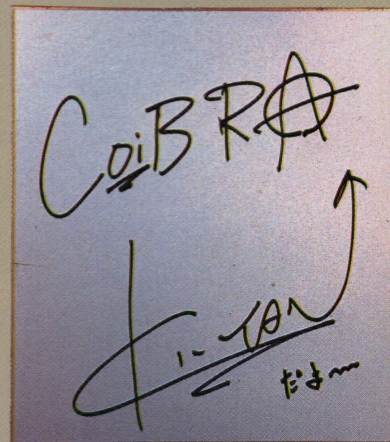
7 AURA
（ビーのサイン入りポラ）

8 AURA
（マーブルのサイン入りポラ）

9 AURA
（子れっずのサイン入りポラ）

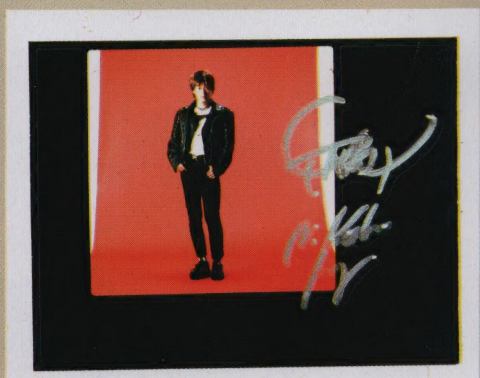
10 COBRA
（YOSUKOのサイン色紙）

UNICORN 19
(奥田民生のサイン入りポラ〈顔面編〉)

UNICORN 15
(奥田民生のサイン入りポラ〈1人立ち編〉)

11 COBRA
(NAOKIのサイン色紙)

UNICORN 20
(手島いさむのサイン入りポラ〈顔面編〉)

UNICORN 16
(阿部義晴のサイン入りポラ〈1人立ち編〉)

12 COBRA
(PONのサイン色紙)

UNICORN 21
(西川幸一のサイン入り写真〈顔面編〉)

UNICORN 17
(堀内一史のサイン入りポラ〈1人立ち編〉)

13 COBRA
(KI-YANのサイン色紙)

応募方法

プレゼントをご希望の方は、とじこみハガキに必要な事柄をお書きのうえ、41円切手を貼ってお申し込み下さい。そのときに、感想や撮影アイディアなどを書いていただくと大変参考になりますのでよろしくお願いします。応募の〆切は12月18日(消印有効)。なお当選者は各1名、また当選の発表はプレゼントの発送をもって代えさせて頂きますので、ご了解下さい。『HiP』もよろしくね。

UNICORN 18
(西川幸一のサイン入りポラ〈1人立ち編〉)

UNICORN 14
(メンバー全員のサイン入りポラ)